

# ニュージーランド南島地震に対する 国際緊急援助隊救助チーム 活動報告書

平成23年12月

独立行政法人国際協力機構  
国際緊急援助隊事務局

緊 援
J R
11-004

## 序 文

2011年2月22日にニュージーランド南島で発生した地震は、クライストチャーチ市および近隣の地域に甚大な人的及び物的被害を及ぼしました。

日本政府はニュージーランド政府からの支援要請を受けて、国際緊急援助隊救助チームの派遣を決定し、JICAは同チーム第一陣を2月23日、第二陣を2月28日、第三陣を3月6日から、それぞれ被災地へ派遣しました。第一陣は、国際緊急援助隊としては初めて、政府専用機により日本を出発し、発災から約39時間で被災地入りする極めて迅速な派遣となりました。

救助チーム第一陣及び二陣は、日本人28人を含む116名が行方不明となったカンタベリー・テレビビル倒壊現場において、ニュージーランド、オーストラリア、中国の救助隊と連携しながら搜索救助活動に従事しました。また、第三陣は、市内8カ所の損壊建物において搜索などの活動に従事しました。いずれも生存者の発見に至りませんでした。その献身に対して被災国政府並びに市民から大きな感謝の念が示されました。

本報告書は同チームの活動内容を報告するものです。

今後、ニュージーランド側による一日も早い復旧・復興と被災者の暮らしの安定と幸福を心よりお祈りいたします。

平成23年12月

独立行政法人国際協力機構

理事 市川 雅一

# 目 次

序 文  
活動写真  
略語表

第 1 章 災害概要	1
1 災害の概況	1
2 ニュージーランド政府の対応	2
3 各国政府の支援状況	2
4 わが国の対応	2
第 2 章 救助チーム	3
1 活動日程	3
2 チーム構成	3
第 3 章 活動報告	5
1 団長総括	5
2 計画・情報分析	9
3 安全管理	13
4 広報・記録	15
5 連絡調整ロジ	16
5-1 連絡調整	16
5-2 ロジスティクス	18
6 中隊長	21
7 医療班	26
8 構造評価	28
付属資料	
1 活動日程	32
2 メンバーリスト	33
3 ニュージーランド側の捜索救助本部	40
4 OSOCC 資料	42

# ニュージーランド南島地震に対する 国際緊急援助隊救助チーム 活動報告書

平成 23 年 12 月  
(2011 年)

独立行政法人国際協力機構  
国際緊急援助隊事務局

## 写真



通称：ポーカー（CCD 付き搜索機材）でがれきの隙間を搜索する救助隊員



瓦礫除去のためエンジンカッターで鉄筋を切る救助隊員



電磁波人命探査装置で、搜索を行う救助隊員



電磁波人命探査装置で、搜索を行う救助隊員



ポーカーでがれきの隙間を搜索する救助隊員



瓦礫除去のためエンジンカッターで鉄筋を切る救助隊員



ダブルブレードカッターでコンクリート破砕する救助隊員



CTV ビルのエレベーター周辺を捜索する救助隊員



ニュージーランド警察と協働の救助活動



JDR 救助チームの救助犬の治療を行うニュージーランドの獣医師



薄暮の中で救助活動が続ける JDR 救助チーム



ニュージーランド・中国と協力し救助活動を行う JDR 救助チーム



エレベータ内部を捜索する救助犬



捜索活動を実施する JDR 救助チーム



各国の支援に対する感謝の記事（ニュージーランドの新聞）



捜索が終了した CTV ビルに黙祷をささげる JDR 救助チーム

## 略 語 表

BoO	Base of Operation	ベースキャンプ
CSM	Confined Search Medicine	閉鎖空間での医療
CSR	Confined Space Rescue	閉鎖空間での救助
CTV	Canterbury Television	カンタベリー・テレビ
DECOM	Decontamination	除染
DVI	Disaster Victim Identification	被災者身元確認
IEC	INSARAG External Classification	国際捜索・救助諮問グループ外部評価
INSARAG	International Search and Rescue Advisory Group	国際捜索・救助諮問グループ
JDR	Japan Disaster Relief	国際緊急援助隊
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JOCA	Japan Overseas Cooperative Association	社団法人青年海外協力協会
OSOCC	On-Site Operations Coordination Centre	現地活動調整センター
PPE	Personal Protective Equipment	個人装備品
UNDAC	United Nations Disaster Assessment and Coordination	国連災害評価調整
USAR	Urban Search and Rescue	都市型捜索救助

## 第1章 災害概要

### 1 災害の概況

2011年2月22日、ニュージーランド南島クライストチャーチ市近郊にて現地時間12時51分にマグニチュード6.3の地震が発生。以下のとおり被害が発生した。

発生日時 : 2011年2月22日12時51分 (日本時間 : 8時51分)

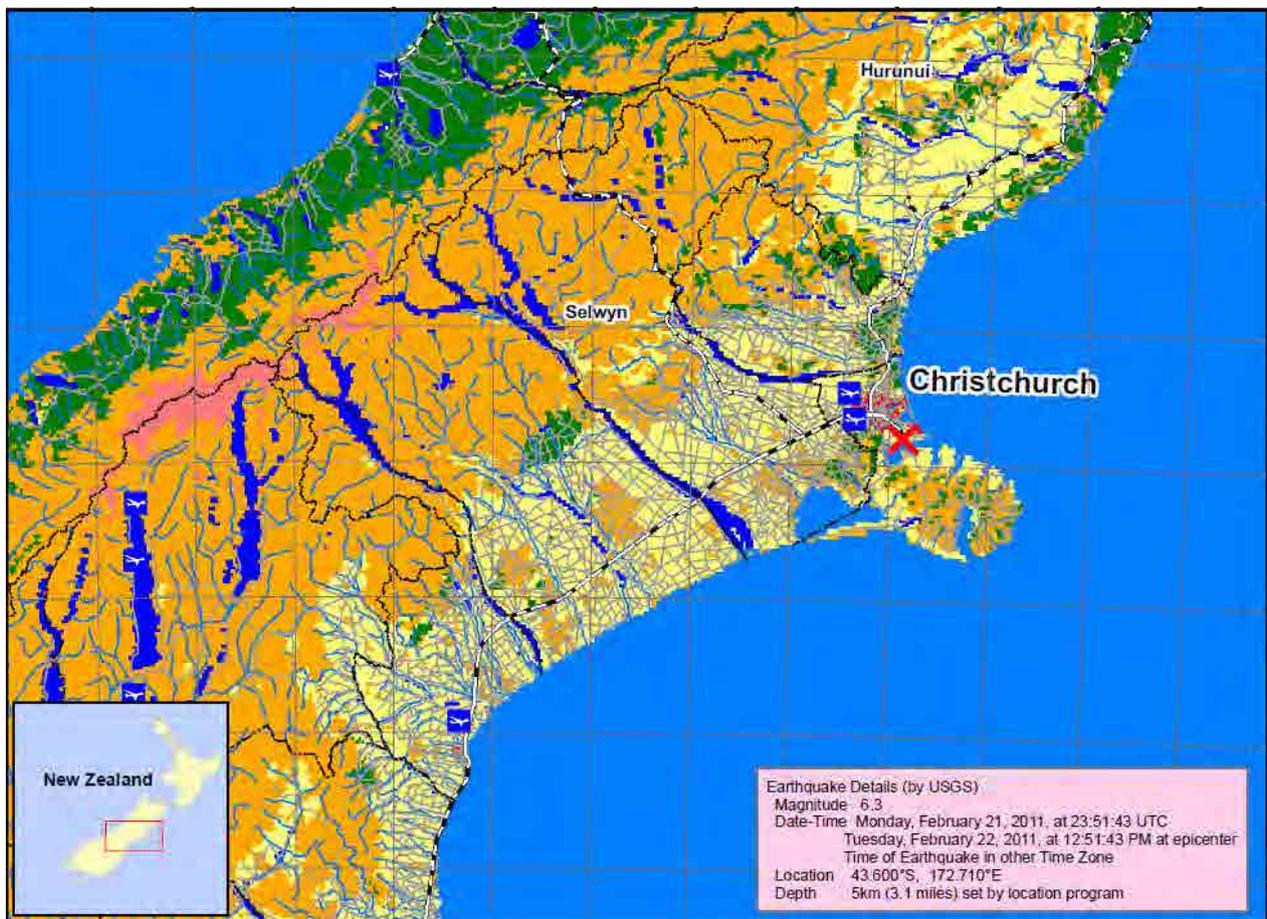
地震の規模 : マグニチュード6.3

震源地 : ニュージーランド南島クライストチャーチ市南東10km、深さ5km

被災状況 : 被害は市中心部に集中しており、大聖堂をはじめ、多くの建物・家屋が崩壊し、広範囲にわたる停電、断水、通信インフラ被害が発生した。

・死者 181人 (うち邦人犠牲者28人)

(ニュージーランド警察発表 (2011年6月1日現在))



出典：地球地図国際運営委員会

## 2 ニュージーランド政府の対応

ニュージーランド政府は、発災後「国家危機管理センター」を設置、被害状況把握・救出活動を開始した。キー首相はニュージーランドで初めて国家緊急事態宣言を発表。住民に対して、余震等の二次被害に備えた注意喚起を発出した。カンタベリー警察による捜索・救助活動の実施、並びに DNA、指紋、歯型等による被災者身元確認（Disaster Victim Identification : DVI）作業が行われた。

## 3 各国政府の支援状況

9 カ国から捜索救助 8 チーム、DVI 作業 8 チームのほか、オーストラリアから 323 人の警察官がクライストチャーチ市内全域のパトロール、129 人のシンガポール陸軍が民政支援のため派遣された。

## 4 わが国の対応

ニュージーランド政府からの要請を受け、外務省は国際緊急援助隊（Japan Disaster Relief: JDR）の派遣を決定。JICA は以下のとおり、救助チーム・専門家チームを派遣した。なお、JDR の捜索救助対象に邦人被災者が多く含まれるのは、今回の派遣が初めてである。

### （1）派遣期間

緊急援助調査チーム：2011 年 2 月 22 日（2 月 23 日より救助チームとして活動）

救助チーム第一陣：2011 年 2 月 23 日～3 月 3 日（9 日間）

救助チーム第二陣：2011 年 2 月 28 日～3 月 8 日（9 日間）

救助チーム第三陣：2011 年 3 月 6 日～3 月 12 日（7 日間）

専門家チーム（警察鑑識）：2011 年 2 月 25 日～3 月 5 日（9 日間）

専門家チーム（心のケア）第一陣：2011 年 2 月 25 日～3 月 7 日（11 日間）

専門家チーム（心のケア）第二陣：2011 年 3 月 5 日～3 月 12 日（8 日間）

### （2）派遣隊員数

調査チーム：3 名

救助チーム一陣：66 名（うち 3 名は、調査チームより編入）

救助チーム二陣：33 名（うち 1 名は、一次隊より延長）

救助チーム三陣：32 名（うち 2 名は、二次隊より延長）

専門家チーム（警察鑑識）：5 名

専門家チーム（心のケア）第一陣：1 名

専門家チーム（心のケア）第二陣：2 名

## 第2章 救助チーム

### 1 活動日程

2011年2月23日～3月12日（18日間）

※ 活動時系列詳細は付属資料1参照

#### <活動概要抜粋>

##### (1) 2月24日～3月1日（第一陣）

カンタベリー・テレビ（Canterbury Television：CTV）ビル現場にて捜索救助活動を開始（発災後45時間59分）。24時間体制（昼間：2交代体制、夜間：4交代体制）で27日20時まで現場活動を継続実施し、その後夜間活動はなし。計23体の遺体を収容するも、生存者の発見、救出には至らず。

##### (2) 3月1日～3月7日（第二陣）：

第一陣から活動を引き継ぎ、CTVビルにて捜索救助活動を実施。計3体の遺体を収容するも、生存者の発見、救出には至らず。

##### (3) 3月7日～3月11日（第三陣）

市内中心部の8カ所の建物における捜索活動を実施。遺体、生存者の発見には至らず。

### 2 チーム構成

#### (1) 第一陣 66名（うち3名は現地参団）

- ・ 団長1名（外務省）
- ・ 副団長4名（警察庁1・消防庁1・海上保安庁1・JICA1）
- ・ 中隊長2名（警察庁1・消防庁1）
- ・ 小隊長4名（警察庁1・消防庁2・海上保安庁1）
- ・ 救助隊員37名（警察庁13・消防庁13・海上保安庁11）
- ・ 通信班2名（警察庁2）
- ・ ハンドラー4名（警察庁4）救助犬3頭
- ・ 医療班5名（医師3、看護師2）
- ・ 構造評価1名
- ・ 業務調整員6名（JICA3、JOCA1、その他2）

#### (2) 第二陣 33名（うち1名は現地参団）

- ・ 団長1名（外務省）
- ・ 副団長4名（警察庁1・消防庁1・海上保安庁1・JICA1）
- ・ 中隊長1名（消防庁1）
- ・ 小隊長2名（警察庁1・消防庁1）
- ・ 救助隊員15名（警察庁5・消防庁5・海上保安庁5）
- ・ 通信班1名（警察庁1）
- ・ 医療班4名（医師2、看護師2）
- ・ 業務調整員5名（JICA3、JOCA2）

(2) 第三陣 32 名 (うち 2 名は現地参团)

- ・ 团长 1 名 (外務省)
- ・ 副团长 4 名 (警察庁 1・消防庁 1・海上保安庁 1・JICA1)
- ・ 中隊長 1 名 (消防庁 1)
- ・ 小隊長 2 名 (警察庁 1・消防庁 1)
- ・ 救助隊員 15 名 (警察庁 5・消防庁 5・海上保安庁 5)
- ・ 通信班 1 名 (警察庁 1)
- ・ 医療班 3 名 (医師 2、看護師 1)
- ・ 構造評価 1 名
- ・ 業務調整員 4 名 (JICA2、JOCA2)

※メンバーリストは付属資料 2 参照

### 第3章 活動報告

#### 1 団長総括

##### (1) 第一陣：外務省国際協力局緊急・人道支援課 吉井幸夫

###### 1) 総論

「災害の一つとして同じ災害はない」とよく言われるが、災害対応にも同じことが言える。今回のニュージーランド南島での地震は先進国で起こった直下型の地震、マグネチュードは 6.3 とあまり大きくはないが、震源がクライストチャーチという都会に近かった（南東 10km）のと浅かった（深さ 5km）ため、多くの死者（3 月 15 日現在で 166 人）が出た。2 月 22 日（日本時間 8 時 51 分）に発災、同日午後（18 時 30 分）には調査チームが成田発、JPR 救助チームは第一陣 66 人が 2 月 23 日～3 月 3 日、第二陣 32 名は 2 月 28 日～3 月 8 日、第三陣次隊 32 名は 3 月 6 日～3 月 12 日まで主に CTV ビルでの搜索救助活動を実施した。救助チーム本来の目的である生存者の救助は果たせなかったが、隊員は厳しい気象状況の中 24 時間体制で搜索救助活動を実施、多くのご遺体を収容した。我が国の救助チームの活動に対しては、ニュージーランド中央政府、地方政府、市民のみならず邦人被害者御家族からも感謝の念が表明された。副大臣、政務官をヘッドとする現地対策本部、我が方大使館からも強力なサポートをいただいたことも特記したい。

###### 2) 邦人被害者

何よりもニュージーランド南島地震に対する JDR 救助チーム派遣とこれまでの救助チーム派遣との違いを特徴づけたのは、被害者の中にかなりの数の邦人が存在したという事実であろう。過去の JDR 救助チーム派遣 14 回のうち、今回のように多数の邦人の搜索救助を行った例はない。また常識的には救助チームという時間との戦いに特徴づけられるチームに、医療チームや自衛隊部隊を追加派遣することはあっても、救助チームの二次隊や三次隊を送るという発想はなかった。

当初、調査チームという形で 3 名が派遣されたが、その調査チームがクライストチャーチに到着する前に、ニュージーランドが JDR の受入れを決定し、我が国政府が即座に正式な派遣を決定したのは邦人被害者（ニュージーランドにおいては外国人被害者）が数多くいたという事実が深く関係したと考えられる。また、本救助チームの活動に対するメディアの関心は非常に高く、団長の役割の大きな部分はメディア、特に日本のメディアへの対応に向けられた。これも通常ならば、JDR の活躍ぶりをアピールすべく、積極的に取材に応じるところであるが、今回は邦人被害者のご家族への配慮から説明ぶりには細心の注意を払った。

###### 3) ニュージーランド政府の対応

当初、ニュージーランドが先進国でもあり、本件の地震に対し自国で十分対応できると思われたため外国の救助チームを受け入れるかどうか疑問視された。海外から救助チームを受け入れた要因の一つに CTV ビルをはじめ外国人の被害者がかなりの数存在したことがあげられるほか、二国間の外交関係に大きな注意が払われていたことが感じられた。外国の救助チームに対する受入れは非常に暖かく丁寧なものであった。国連災害評価調整（United Nations Disaster Assessment and

Coordination : UNDAC) チームこそ受け入れなかったが、自国で現地活動調整センター (On-Site Operations Coordination Centre : OSOCC) を設置し、ほぼ国際捜索・救助諮問グループ (International Search and Rescue Advisory Group : INSARAG) のガイドラインにそった外国チームの受入れが行われた。空港からキャンプまでの輸送手段、ヒーターの提供、NGO による朝食の提供等、期待以上の厚遇ぶりであった。キー首相や総督ご夫妻も我が国を含む外国チームのキャンプを訪れ、感謝とねぎらいの言葉をかけていただいたほか、一般市民からも拍手を送られるなど隊員は勇気づけられた。

#### 4) 人間関係

今回我が国の救助チームが比較的スムーズに受け入れられ、重要なサイトを委ねられ、効果的、効率的な活動ができた原因の一つとして、INSARAG 内で培った人間関係が挙げられよう。ニュージーランド側の捜索救助部門の現場最高責任者であるジム・スティアート・ブラック氏は、我が国が 2010 年に INSARAG 外部評価 (International External Classification : IEC) 受検を実施した際のメンター (助言者) であり、活動サイト等に配慮してくれたほか、邦人被害者の家族に対しても丁寧な説明をしてくれた。INSARAG 医療ワーキンググループ議長のトレバー・グラス氏も出口戦略を決める際、我が国の意向をよく聞いて調整してくれた。また、第一陣の後半になって、ニュージーランド外務省から日本語のできる省員がリエゾンとして派遣された。同人がきてからは、交通手段の手配からロジ関係全般が非常にスムーズにかつ簡単にできるようになった。同人の前に外務省から派遣されていた外国救助チームのリエゾンが中国語の専門家ただだけに、我が国のチームに対するケアの差がより大きく感じられた。捜索救助の世界は狭いだけに、日頃からの人間関係の構築の重要性が再認識された。

### (2) 第二陣：外務省国際協力局国別第一課 沼田行雄

#### 1) 活動概要

JDR 救助隊チーム第二陣 (32 名) は、2 月 28 日に商用機で成田を出発。オークランドを経由し、翌 3 月 1 日正午過ぎにクライストチャーチに到着。同日午後第一陣との事務引き継ぎを了し、2 日早暁に現場に近い公園内に設置されたベースキャンプ (Base of Operation : BoO) に入り、同日早朝より CTV ビルでの捜索・救助活動を開始した。

第二陣の任務は、第一陣の活動を間断なく継続し、邦人犠牲者が集中した CTV ビル倒壊現場での捜索・救助活動を完遂することにあつたが、ニュージーランド当局の理解と協力の下、所期の目的を達成することができたと考えられる。第二陣の活動は、3 月 2 日から 7 日までであり、8 日早暁に現地を発って同日中に帰国した。当初、CTV ビルの倒壊現場において、ニュージーランド側の消防、警察当局と緊密に連携・共同して、捜索・救助活動に全力を挙げて取り組み、この間、3 日午後には、ニュージーランド政府が、被災地における活動を捜索・救助から遺体発見 (リカバリー・フェーズ) に移行を発表したものの、ニュージーランド当局の同意の下で CTV ビル現場での捜索活動を最後まで継続。3 月 5 日 (土) 15 時 58 分、同現場における

すべての捜索活動及び残骸撤去作業を終了、撤収した。また、翌 6 日早朝には、ニュージーランドチームとともに隊員全員で現場での黙祷式を行い、犠牲者に対する哀悼の意を表することで一定の区切りとすることができた。

捜索作業は、ニュージーランド当局が既に 24 時間シフトを停止していたことから、早朝から夜間までの 12 時間体制に移行。日本チームは 2 小隊制で、ニュージーランド側による重機を使用した構造物の除去、救助犬を投入した捜索等と連携して、エンジンカッターを使用した床・天井部分の切断等を行いつつ、懸命に行方不明者、同所持品の捜索活動にあたった。この間、生存者の発見・救出の可能性が極めて低いなかで救助隊員の士気を維持することが難しい状況にあったが、各副団長、中隊長、小隊長の適格な指導のもと、全員が最後まで強い使命感をもって、細心かつ徹底した捜索・救助活動にあたったことを特記したい。また、余震や驟雨が続いたうえ、倒壊後の火災の影響もあり、不安定で更なる倒壊の可能性を含む危険な状態下の困難な作業となり、衛生管理と安全面での配慮が不可欠な状態であったなか、医療班のきめ細かな指導と助言、JICA ロジ要員の献身的な活動があったことを併せて報告したい。

## 2) 邦人及びプレスとの関係

今次震災では、同ビルの倒壊に日本人留学生など多くの邦人が巻き込まれ、多数の家族・親族が現地に入り捜索活動の進展を見守っており、また、従来の災害以上に我が国マスコミが強い関心を寄せていたなかでの捜索作業となったとの特殊性に留意する必要がある。加えて、ニュージーランド当局が、捜索活動の優先、安全面の配慮等から、家族やマスコミの現場付近への立ち入りを厳しく制限したことから、情報が極端に少なく、そのことが関係者のいら立ちや不安をおおる結果となっていたと思われる。第二陣としては、かかる状況を踏まえ、現場での作業にあたってはご遺族の心情を慮り細心の注意を払うよう心がけるとともに、プレス対策についても、日本側の現地対策本部と緊密に連携して、団長による定期的な記者ブリーフを継続し、家族の心情に配慮しつつ可能な範囲での情報提供に努めた。提供できる情報はごく限られたものとならざるを得なかったが、このような機会を設けていたことは、現地入りしていた日本のマスコミ関係者でも概ね好意的に捕えられ、これが連日の報道につながったと思われる。特に、6 日の現場での黙祷の写真が大きく報じられるなど、JDR 活動の国内広報上の観点から大きな効果があったと考えられる。プレスへの対応ぶりについては、今後も十分に研究しておくことが肝要。

## 3) ニュージーランド政府・国民との関係、緊急援助隊の体制

今次災害の犠牲者には、多くのクライストチャーチ市民や日本人以外の外国人が含まれているなかで、今次派遣期間を通じ、ニュージーランドの人々が我々の活動をこころから歓迎し感謝していることを強く実感させられた。この点、救助活動は、すべての犠牲者に対する無償の行為であるとの視点を見失わないことが重要であることを再認識した。往復のニュージーランド航空機内で、機長による日本チーム搭乗の機内放送に対して乗り合わせた多くの乗客が一斉に拍手を送ったこと、クライストチャーチ空港構内を移動する隊員達が市民の握手と暖かい声援で出迎えられたこと、災害現場近くの被災した教会の牧師さんから、地域住民の総意として全隊員

が心温まるグリーティングカードと心づくしのプレゼントをいただいたこと、空港内での移動バスの中で、現地在住の日本人女性から援助隊派遣を在留邦人として誇りに思うとの言葉をいただいたことなど、数え切れないほどの激励や感謝の気持ちが伝えられたことを記録するとともに、今後の JDR 活動の糧とすべきである。

加えて、吉井団長総括にもあるとおり、今次オペレーションの成功は、OSOCC の独自立ち上げに始まり、制限エリアの確定、各国の国際捜索救助チームの配置、活動管理等を手際良く行うなどニュージーランド側の対応能力が卓越していたこと、及び、ニュージーランド政府の手厚い配慮に加え、ジョン・スチュアート・ブラック氏、トレバー・グラス氏、ニュージーランド外務省マルコス書記官（リエゾン）をはじめとする親日的で能力に高いキーパーソンに恵まれたことに起因するところが大きいと思われ、わが国としても、今後の国際捜索救助チームの派遣及び受入れにあたり手本とすべき多くの教訓を含むものと考えらる。

### （3）第三陣：外務省国際協力局事業管理室 折原茂晴

#### 1) 総論及び活動概要

国際緊急援助隊救助チーム第三陣（32 名）は、3 月 7 日に第二陣から活動を引き継いで以降、3 月 11 日にかけて、ニュージーランド当局及び他国の救助チームと緊密に連携・協力しつつ活動を行った。

第二陣は、3 月 3 日に捜索救助フェーズの終了の宣言がなされたあとも、ニュージーランド政府の要請を踏まえ CTV ビルにおいて活動を行った。その結果、3 月 5 日に CTV ビルでの作業を終了した。一方で、他の多くの建築物においては捜索及びがれきの除去等の活動が必要とされおり、ニュージーランド側より高い技術をもった日本の専門家による支援継続に高い期待が示された。

これを踏まえ、第三陣が引き続き活動を行うこととなり、主にクライストチャーチ市内において CTV ビルの周辺数百メートルの範囲内にある被災した建物を中心に、捜索及びがれき除去等の活動を行った。余震も続き、崩落の危険性が残る建物での捜索活動であったが、強い使命感をもって安全面にも留意しつつ、ニュージーランド側から要請された任務等できることを全力で遂行した。その間、3 月 8 日と 10 日には、被災者のご家族が CTV ビルを訪問された際、献花等の支援もさせていただいた。

撤収にあたっては、ニュージーランド当局より、各国の捜索救助チームには十分な支援をいただいたとして米国や中国のチームが帰国するなかで、我が国チームについても 10 日をもって活動を終結してはどうかとの提案がなされ、撤収を行うこととなった。出発前日の最終 11 日は、午前 9 時過ぎから CTV ビルとその付近の目視による捜索を行うとともに、最後に全員で黙祷を献げたあと、ニュージーランド側からの急な要請にも対応できる体制を維持しつつ、撤収作業を行った。

第三陣の撤収をもって、わが国 JDR 救助チームは、第一陣から第三陣まで総勢 128 名による 2 月 24 日から 3 月 11 日にかけての活動を終えた。余震が続き冷たい驟雨のある厳しい被災現場において、隊員全員が最後まで士気高く徹底した捜索・救助活動を全力で遂行し、無事撤収・帰国したことを報告する。これに対しニュージー

ランド関係当局のみならず数多くの市民から謝意表明がなされた。

最後に、我が国救助チームの活動に対し、消防 USAR 部隊や地方政府をはじめとするニュージーランド側関係当局、現地対策本部、我が方在外公館等からいただいた各種協力や御配慮に感謝申し上げます。

なお、3月11日、日本では東日本大震災が発生し、第三陣一行は日本及び家族を気遣いながら帰国の途についたが、12日の成田到着後も、多くの隊員は東北での震災対応等に向け速やかに成田をあとにした。

## 2) 邦人の被災とプレスの関心

第一陣及び第二陣の団長総括で指摘があるとおり、今次震災においては、多くの邦人が被災された。そのご家族が現地入りして進展を見守られるなかで、日本のプレスの関心も高かった。このような特別の状況の下、第三陣も被災者のご家族の心情をお察し申し上げつつ、プレスの関心にも配慮し、現地対策本部と連携して全力で任務に取り組んだ。その中で、3月8日には、被災者のご家族がCTVビルを訪問された際、現場まで直接立ち入ることができなかつたため、隊員がご家族の方々からお花等をお預かりして、現場にお供えさせていただいた。また、10日の訪問の際にも隊員により対応させていただいた。

## 3) ニュージーランドの受入れ体制等

各団長の報告にもあるとおり、ニュージーランドの受入れ体制は、ジョン・スチュアート・ブラック氏をはじめとする有能な人材の下でよく整備され、外国救援チームがスムーズに活動できるよう支援体制が確立されていたことが指摘できる。例えば、日々変化する状況やニーズに対応すべく、各国チームの代表が毎日、朝と夕刻に参集し、その日の業務調整と活動報告を行い緊密な連携が図られた。また、活動に必要な機材や移手段などの支援体制も機能していた。そのような状況の下、我が国救助チームはニュージーランドチームやオーストラリアチームと連携しつつ合同で適確な捜索活動を展開できた。このような受入れ体制は、今後の各国における緊急援助活動の現場において参考になると考える。

## 2 計画・情報分析

### (1) 第一陣：総務省消防庁危険物保安室課長補佐 中本敦也

救助隊の活動などについては、今回の派遣を通じて個人的に感じたことや反省点について記述することとする。

ニュージーランドは、国土の面積は27万534㎡（日本の約4分の3）、人口が約437万人（静岡県より少し多い）と非常に小さいにもかかわらず、震災対応という点でいくつかが注目すべき点があった。それらの点について述べる前に、制度の違いについて簡単に触れておきたい（ただし、多くはニュージーランド消防当局のホームページからの情報であるので念のため）。

ニュージーランド消防は国家消防で、本部をウェリントンに置き、8つの方面本部、約400の消防署、約8,000人の消防士（このうち2割弱がプロの消防士）から構成されている。また、都市型捜索救助（Urban Search and Rescue : USAR）は3つの部隊がオークランド、パームストーンノース、クライストチャーチの3カ所に置かれている。

ニュージーランド消防とは別に林野火災を所管する全国農林消防局とでも訳すべき組織が存在し、約 3,000 人の消防士（ボランティア消防士とパートタイム消防士）を有している。この 2 つの組織は、ニュージーランド消防委員会の下に属している。

まず、現地に到着して驚いたのは、クライストチャーチ市内の地震による被害のあったかなり広範囲の部分について立入規制を敷いていて、いわゆる救助関係者や警察、軍を除いて立入ができないようになっていたことである。立入の規制を実際に行っていたのは警察と軍関係者だったようで、それぞれの境界のところに立って出入りする車両や人をチェックしていた。これによって、救助関係者は自らの二次災害に留意するほかは救助作業に専念できることになっていたようである。

また、この規制区域のなかの公園（ラティマースクエア）を外国チームのベースキャンプを置く場所として開放し、公園内には関係者以外立入禁止としていたので、どの国の救助チームもこの区域内では比較的リラックスして過ごすことができていたのではないかと思料する。特にマスコミから隔離されているのはチーム全体としては精神的にもゆったりできたのではないかと思う（代わりに、毎日外部で報道対応をする仕組みとしていた）。これは非常に重要なことで、実際に現場で救助作業を行う救助隊は交代で休憩を取ることになるが、人の目があるとゆっくり休むことができず疲労が回復できないこととなるからである。

外国チームの受入れに関しては、現場サイドでは窓口を一本化し、各国チームの要望にきめ細やかに答えていただけでなく、積極的に生活環境や救助活動の環境を改善しようとしていたことが印象的であった。例えば、食事の面も当初も既に簡単な屋台のようなものを公園内に設けて対応していたが、最後のほうは食堂のようなもの（かなり大きい）を設置していたし、燃料の面や感染防護服などもほぼ要望どおり支給されていた。

個人としての反省としては、現在の INSARAG に基づく救助活動（本部の活動も含めて）を事前によく勉強していなかったこと、また語学力のなさも改めて痛感した。

## （2）第二陣：総務省消防庁 応急対策室課長補佐 中越康友

第二陣の派遣が決まったのは 2011 年 2 月 28 日、地震発生後 6 日目、第一陣が出発してから 5 日目、クライストチャーチ市内 CTV ビルの搜索救助活動が継続し、日本国内でも繰り返し報道されている状況下であった。派遣を告げられてから職場を出発するまで 2 時間半ほど、交替チームである第二陣にしては意外に慌ただしい出発であった。

現地での活動は、倒壊した CTV ビルのがれきを撤去しながらの搜索救助活動を第一陣から引き継ぎ、最後まで完了したこと、日本チームとして次の任務となった市内の復旧に向けた搜索支援活動を第三陣にスムーズに引き継ぐための準備であった。私は、計画・情報分析担当の副団長として、各国救助チームの定例のリーダー会合に同席し、OSOCC や搜索救助本部である USAR Command との連絡調整などに携わった。今回の災害派遣は、邦人の被害者ご家族への説明等を行う外務省の現地対策本部（外務副大臣が本部長）との連携があったこと、活動期間の途中でニュージーランド当局による救助フェーズの終了宣言がなされたこと、救助フェーズ後の支援活動も実施したことなど、

特徴的なことがいくつかあったが、特に鮮烈な印象を受けたニュージーランドの受援体制について触れておきたい。

ニュージーランド政府は、外国救助チームの派遣受入れを決定してすぐに、UNDAC チームの派遣は不要と宣言して、自ら OSOCC を設置し活動調整を主導していた。各国救助チームの活動拠点を、震災後に設定した立入禁止区域内の市内の大きな公園 1カ所に集約させ、効率的な運営を行っていた。活動拠点のゲートのチェックは門番を常駐させ徹底しており、また、衛生管理として全チームに活動後の除染を徹底させていた。目を見張ったのは、外国チームに対する後方支援体制。ふんだんなペットボトル飲用水、温かい食事も取れるケータリングサービス、頻繁に清掃される仮設トイレ、温水も出る仮設シャワー、各チームに提供された暖房用ストーブ、活動服のクリーニングサービスなど多岐にわたって無償提供されていた。活動拠点の脇には、地元ボランティアの車両による移動支援もあった。これらの国内外の救援チームに対する支援体制は、日を追うごとに充実していった。また、活動拠点内の OSOCC テントに隣接する位置に、大きなアンテナを備えた通信車両により USAR Command を設置し、外国チームにも無線器を貸与し、国内外の救助チームの統括を実施していた。受援国としての仕切りっぷりは圧巻であった。今回の災害がある程度局所的であったことも成功の要素かもしれないが、受援のマネジメントとして大いに参考にすべきものと思う。

USAR Command の責任者であるニュージーランド消防のジム・スチュアート・ブラック氏は、JDR 救助チームの IEC 受検準備においてアドバイザーを務めてくれたが、捜索救助活動の仕切りのみならず、各国の外務省による被災者家族のための説明会に同席し、活動状況について親身な説明に奔走されてもいた。また、外国チームに担当のリエゾンをニュージーランド政府職員から指定していたが、日本チーム担当となった内閣府のマークさんは日本語が堪能で、早朝から深夜まで親身に対応してくれた。

応援側である各国の救助チームにおいても、活動の幅というか姿勢が印象深かった。

USAR フェーズ終了宣言後、市街地の復旧に向けた各建物の取り壊し前の最終的な遺体のないことの確認と貴重品の回収のオペレーションについて、できる範囲での支援を要請され、USAR チームの活動であるのかそれぞれ思いはあったようだが、基本的なスタンスは、生存者救出のための活動に限ることなく、被災地のためにできる支援は許す範囲で柔軟に対応するという姿勢であった。ニュージーランドでは、空港でも活動現場でも活動拠点でも、あらゆる場所でニュージーランドの政府・関係機関の職員や住民の方から感謝の言葉をかけられ、親身な協力をいただいた。帰国して数日後に発生した東日本大震災においては、ジム・スチュアート・ブラック氏はニュージーランド救助チームのリーダーとして日本に来て活動された。ニュージーランドの人々の優しさが心から嬉しかった。

最後に、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、一緒に活動させてもらった各隊員の懸命に活動に取り組む真摯な姿勢に深い敬意と心からの感謝を捧げたい。

### (3) 第三陣：総務省消防庁特殊災害室 大嶋文彦

2月22日、ニュージーランドで大きな地震が発生した。大きな被害が予想され、そ

の対応のため、日本政府は、翌 23 日に国際緊急援助隊を派遣、その後、交代要員となる第二陣を派遣した。

国際消防救助隊員として指定されていた私は、第三陣の派遣はないだろうと予想はしていたが、予想とは異なり第三陣の派遣が決定され、派遣されることとなった。

1999 年の台湾大地震の際に JDR として派遣されて以来、13 年ぶり 2 回目の派遣となった。しかし、当時とは異なり、UNDAC チームの枠組みがきちりと確立されていること、第三陣ということで災害発生初期段階ではないことなど状況の違いがあった。

現地では、まだ余震が多いと予想され、私はまず派遣隊員全員を無事帰国させること、そして、活動内容はある意味厳しさが予想されたが、最善を尽くすという思いで、ニュージーランドに向かった。

3 月 7 日、クライストチャーチ空港に到着したが、空港の周りは大きな被害が見られなかった。空港から災害現場に向かう途中も、大きな被害は見られず、本当に被害が出ているのかと思ったほどだ。しかし、活動現場に近づくとつれ、大きな被害が目の前に飛び込んできた。

指揮本部に到着し、まず、第二陣から引き継ぎを受けたが、第二陣の活動とは異なり、任務は捜索を完了させるための解体作業を行うにあたっての捜索と所持品の回収であった。3 月 8 日朝、まず、ニュージーランド USAR と任務の分担を調整し、「Sumner Museum」を担当することとなった。この活動場所は、Bo0 から直線で約 12km 離れた場所にあったため、車両に分乗し現場へ向かうこととなった。ここでは、崩落のおそれがあったことから建物入口にニュージーランドから提供を受けた鉄管(直径約 1.5m、長さ約 15m)を建物入口に入れての活動となった。

その後、Bo0 周辺の建物で活動を行った。活動にあたっては、ニュージーランド側から任務分担を受けてはいたものの、重機の到着遅れや活動現場近くの解体作業が終わるまで活動が中断することがあるなど、活動した隊員にはご迷惑をおかけしたと考えている。

ニュージーランド USAR にも十分な情報がなかったが、もう少し調整の余地があったのではないかと反省しているところである。また、今回は第三陣ということで時間的な余裕もあったことから、出発前に、ニュージーランドのクライストチャーチ市のホームページから、活動が想定される地区の地図を印刷して準備していった。印刷したものを切り貼りして大きくしたものであったが、指揮本部での活動場所の把握には少しは役に立ったのではないかと考えている(元々指揮本部に地図はあったが、建物の形が印刷されていなかったため、持参したもののほうが使いやすかった)。また、指揮本部には、インターネットに接続されたパソコンがあり、住所から地図を検索し、印刷した地図と照らし合わせることで活動場所を概ね特定することができた。

ニュージーランドの対応で感心したのは、徹底した除染であった。各国の Bo0 が設置されている公園をクリーンエリアとして、その入口には、消毒ポイントが設置され常に消毒してから入るようになっていた。第二陣までは、着替えも含め徹底した除染が行われていたようだった。

帰国の前日、日本で大きな地震が発生したことを知ることとなった。この地震については、ニュージーランドでも大きく報道され、地震や津波の状況がテレビなどで繰

り返し放送されていた。また、帰国当日、ニュージーランドの空港で入手した新聞にも、日本の地震の記事が一面に掲載され、被災の大きさを予想させる写真や記事が掲載されていた。日本にいれば、間違いなく災害対応にあたっているだろうと思いながら、業務につけず、もどかしい気持ちであった。成田から帰庁する際、隊員と、また、現場でお会いする方もいるかなと話ながら帰庁したが、実際、現地派遣された福島県では、ニュージーランドに派遣されていた隊員の方と会うこととなった。

今回の活動にあたって、ニュージーランド USAR との活動調整は、JICA 職員の協力をいただいた。また、同行した医療班からは、医療面から隊員のケアを行っていたいたし、構造評価の専門家の方からは、活動現場での助言をいただいた。改めて、その協力や活動に感謝をしたい。

最後に、活動にあたって、ニュージーランド政府からは、多大な協力をいただいたことに感謝をいたします。また、災害でお亡くなりになられた方のご冥福と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

### 3 安全管理

#### 第一陣：海上保安庁 渡辺博史

##### (1) 移動時

第一陣では、政府専用機で派遣していただいたおかげで、機内で打合せを実施することができた。また、十分に休息、休養を取ることができたので、現地入り後、捜索・救助活動に集中することができ、安全管理及び健康管理においても非常に有益であったものと思料する。

##### (2) 活動時

###### 1) 治安面

被災国において、活動サイトの立入り禁止措置が講じられており、警察当局による警戒措置が取られていたため、捜索・救助活動に集中することができた。また、Bo0 においても安心して活動でき、夜間の警戒など治安面で特段の対応を講じる必要はなかった。

###### 2) 衛生面

被災国においては、除染の考え方が徹底していた。若干不便な面はあったものの、Bo0 との内外を区別して衛生を管理するという考え方は合理的であると思う。しかしながら、衛生管理に優先するものではないが、指揮本部にジャージで勤務するのもあまり見栄えがよくないのではないかと感じたので、効果的な対応に工夫が必要である。

###### 3) 健康管理

できる限り現場に出て、隊員の活動状況の把握に努めた。また、隊員への声掛けとともに、中隊長、小隊長及びメディカルマネージャーから情報の収集に努めた。さらに、医療班とも連携して派遣中の隊員の健康管理に留意した。

###### 4) 安全管理

活動サイトの CTV ビルは、壁面の一部を残して崩壊した危険な状態であり、余震

も続くなか、絶対に二次災害が起こることがないように注意を払った。現場では、中隊長、小隊長の指揮の下、各隊員とも負傷者が出ないように細心の注意を払いつつ活動した。活動サイトでは、余震が起こるとサイレンが鳴り、避難指示が出されていたが、エンジンカッター等で作業中の隊員にはサイレンが聞こえないこともあったことから、警戒要員を配置し、大声で叫ぶ、または、肩を叩くなどしていったん退避することを徹底した。また、構造評価専門家には、ステージごとや評価が必要な場合にアドバイスをいただきながら活動を続けた。

### (3) 所見

JDR は、これまで大半が途上国への派遣であり、生活面での制約が多いことが通常であったが、今回の被災国は受入れ態勢が素晴らしく、衛生面や健康管理についても負担を強いられることがほとんどなかったため、集中して捜索・救助活動を行うことができた。大きな負傷者を出すこともなく任務を遂行して帰国できたことは、JDR 隊員の努力も然る事ながら、派遣に関わるすべての関係者のご支援の賜物だと思う。また、医療班が活動サイトに常に同行していただけたことは、活動を行ううえで非常に心強かった。JDR の強みは、それぞれの特徴を活かした All JAPAN のチームであるということに改めて認識した。

### (4) 被災・活動状況写真

#### 1) CTV ビル



#### 2) 捜索・救助活動中の JDR



### 3) 除染設備



## 4 広報・記録

副団長 警察庁長官官房国際課 片田佳弘

今次ニュージーランド地震災害における JDR 救助チームの派遣は、被災地のクライストチャーチが風光明媚で気候、治安等も良く、日本人の海外研修や語学留学先として人気が高い場所であり、邦人被災者も多数見込まれたことから、発災当初から国民の高い関心を呼び、連日報道されるなかでの派遣となった。

### (1) 広報環境

被災地は、ニュージーランド当局によって、広範囲にわたり立入禁止区域が設定され、活動現場はもとより、指揮本部・宿営地にもマスコミが立ち入れない環境であったため、現地では、アートギャラリーでのメディア対応がチーム側からの唯一の情報発信の場となった。

### (2) 広報対応等

#### 1) 現地広報

##### a) 初日(2月24日)

- ① 現地午前 11:00 副団長による記者ブリーフ
- ② 現地午後 5:30 副団長による記者ブリーフ

##### b) 2日目以降(外務省からの指示)

- ① 現地午前 9:30 団長による記者ブリーフ
- ② 現地午後 2:30 政務官の記者会見(団長同席)
- ③ 現地午後 5:30 団長による記者ブリーフ

##### c) 広報場所

アートギャラリー前広場(規制区域外で指揮本部から徒歩 12、3 分の場所)

#### 2) 東京と現地の情報発信のデマケ(外務省からの指示)

- ・東京: 邦人の安否情報、政府間のやり取り等
- ・現地: JDR の活動予定、活動自体の内容、エピソード等

#### 3) 取材申し込み・対応

日本政府現地対策本部による対応

### (3) 今後の課題（要検討事項）

#### 1) 広報体制の強化・見直し

##### a) 日本政府が現地対策本部を設置する場合：

同現地対策本部に一本化した情報発信体制の確立。

##### b) 日本政府現地対策本部を設置するに至らない場合：

メディアの関心が高く、外務省として何らかのコントロールが必要と判断する場合には、外務省報道課員等を指定派遣するなど、予め体制を強化して派遣。

#### 2) 広報ガイドラインの作成

被災国現地対策本部の意向を踏まえた、他国救助チーム等との間における情報発信の調整とルール化。

## 5 連絡調整・ロジスティクス

副団長 国際協力機構国際緊急援助隊事務局 神内圭（第一陣）、大友仁（第二～三陣）

### 5-1 連絡調整

#### (1) 先遣隊

発災当日に本邦を出発した調査チーム3名は、ニュージーランドへの移動中に JDR 救助チームの派遣命令が発出されたことを受けて、被災地到着時点（2月23日12：10 クライストチャーチ空港着）から、救助チーム先遣隊として活動を開始した。市内中心部へ移動後、現地災害対策本部（於 Art Gallery）を經由して、緑地公園（Latimer Square）に設置された捜索救助本部（USAR Command）に15：00頃到達し、同本部長（USAR Commander）から次の事項を聴取した。

- ・活動中の USAR は、New Zealand Task Force 3 隊及びオーストラリアのニューサウスウェールズ（NSW）隊の計4隊である。
- ・人命救助のため USAR チームの投入が必要とされた大規模な倒壊建物は2カ所である。
- ・このうち、CTV ビルは、ニュージーランド隊が複数名の生存者を救出したが、更なる人命救助の見込みがないと判断し、活動を終了。担当部隊は撤収済みである。
- ・一方、パイン・ゴールド・コーポレーション（PGC）ビルは、オーストラリア NSW 隊が依然活動中であるが、こちらも更なる生存者救助の見込みはない。

よって、クライストチャーチ市内において、人命救助のための USAR 活動は、実質的に終了したと判断している。

上記情報（判断）を日本・ニュージーランド双方が本国・本省へ伝達し善後策を協議した結果、日本隊第一陣は予定どおり本邦を出発することとしニュージーランド側としても受け入れることが確認された。

先遣隊は引き続き、本隊の活動予定サイトと見込まれる、近傍の CTV ビルを現地踏査した。同行したニュージーランド側現場指揮官によれば、生存者18名を救出したが更なる見込みはない、また、エレベーター・シャフトの二次倒壊のおそれがあることから、安定化措置が取られるまで、遺体収容作業を中断し要員を撤収させて

いるとのことであった。

さらに先遣隊は本隊受入れ準備として次の活動を行った。

- ・ Bo0 の設置場所・展開位置の確認
- ・ 活動調整及びタスク決定の手順及びニュージーランド側担当者の確認
- ・ 本隊人員・資機材の空港から Bo0 までの輸送手配  
(円滑性を重視し、人員はニュージーランド側手配、機材の通関・輸送は日通側手配)
- ・ 空港到着時の本隊人員・機材の Bo0 サイトへの誘導、等

なお、ニュージーランド政府は救助チームの受け入れにあたり、在京ニュージーランド大使館を通じて、予め、入国・通関・動物検疫に関わる手続き方法をきめ細かく日本側へ連絡してくるなど、柔軟で迅速的確な対応が取られた。これにより、救助犬の輸出入についても円滑に進めることができた。

## (2) 第一陣

ニュージーランド側の USAR Command は、付属資料 3 の体制を取っており、日本を含む国際 USAR チームは、その統括指揮下で活動した。同本部は、下部機構として UNDAC/INSARAG の方式を準用した OSOCC をニュージーランド側直営により設置し、日本を含む各国際チームの活動を適切かつ効率的に調整していた。これは、ニュージーランドが平時からの INSARAG への貢献や有事の際の UNDAC メンバー派遣を通じて国際 USAR 活動の調整に関する経験と知見を蓄積しており、このことが自国内の大規模災害における国際 USAR チームの受入れ調整にも活かされたものとする。

OSOCC 定例会議は毎日 7 時及び 19 時に開催されており、日本隊は 24 日 7 時の回から参加を開始、以後、原則として、団長、副団長（連絡調整・ロジ担当）の 2 名が毎回参加した。OSOCC 会議における議題、会議結果、配布資料は付属資料 4 のとおり。

2 月 28 日には、国際チームの撤収計画に関する臨時 OSOCC 会議が開催された。これは、実態として人命救助の時期を過ぎているにもかかわらず、諸般の事情からニュージーランド政府が USAR フェーズ終了を宣言できないなかで、チーム間の非公式な意見交換会として開催されたものである。

また、在ニュージーランド日本大使館・日本政府現地対策本部、日本通運、日本航空等の日本側協力関係者との間で、第一陣受入れ・同撤収、第二陣受入れなどに関する諸調整を行った。

## (3) 第二陣

ニュージーランド側の連絡調整体制は、基本的に第一陣と大きな変更点はなく、OSOCC 定例会議もほぼ毎日 7 時及び 19 時に行われ、団長、副団長（計画担当、連絡調整・ロジ担当もしくは、業務調整員）の 3 名が参加した。第二陣以降は、捜索救助本部との定時以外の連絡は、連絡調整事項を記録に残すため、無線連絡のみに特化することになったため、その指示に従い、部隊の移動や転進に関するニュージーラ

ンド側との連絡調整は、無線を通じて行った。また、各国 USAR チームに所属する医療班を集めたミーティングも実施された。

第二陣活動中に、ニュージーランド政府は人命救助フェーズからリカバリー・フェーズへ移行すると宣言し、OSOCC は Demobilization Form を各チームへ配布した。同時に、可能ならば国際 USAR チームのリカバリーフェーズへの支援継続を要望する旨伝達があった。今般の支援の特殊性もかんがみ、判断に迷うところであったが、米国、オーストラリア、シンガポールなどの撤退時期を聞き取り、最終的には日本政府の現地対策本部の意向もあり、第三陣を派遣することが決定された。

また、在ニュージーランド日本大使館・日本政府現地対策本部、日本通運等の日本側現地関係者との間で、第二陣撤収、第三陣受入れ、機材供与などに関する諸調整を行った。また、第二陣はニュージーランド側の調整により、家族の現場訪問や、マスコミの現場視察などが実施され、その対応のため、日本政府現地対策本部との連絡調整を密にする必要があった。

#### (4) 第三陣

第三陣の連絡・調全体制は、ほぼ第二陣と同様であるが、既に CTV の活動は終了し、捜索救助本部からの指示により、活動・転進していたため、無線による下命調整が多かった。

第三陣のマスコミ対応は、隊の活動予定（撤退時期を除く）以外の、救出状況や、データに関しては、ニュージーランド側の発表に委ねることとした。家族対応も二度ほどあったが、調整は日本政府現地対策本部の指示を受けて実施した。

### 5-2 ロジスティクス

#### (1) 第一陣

##### 1) Bo0

New Zealand USAR Command の指示に基づき、市内中心部の緑地公園 Latimer Square 内の指定区画に、本隊到着直後に Bo0 を設営した。同区画は、ニュージーランド USAR Command の直近であり、オーストラリア二隊（NSW 隊、クィーンズランド隊（QLD））及び台湾隊の Bo0 とも近接していた（さらに後続のシンガポール、台湾、中国、米国、英国隊ともすべて同公園内に Bo0 を設置）。

なお、政府専用機への貨物積載量が大幅に制限されたことから、携行資機材を通常量よりも約 3.5 トン削減せざるを得なかった。このため、指揮本部用十字テント、医療班用エアテント、一部のロジテントの携行を断念し、ワンタッチ・テントでの仮設対応を余儀なくされた。

##### 2) 物資補給

水、燃料、潤滑油など USAR 活動に必要な消耗材は、基本的にすべて New Zealand USAR Command のロジスティクス部門が一元的に調達・供給する体制が取られていた（各国際チームが個別に市中で調達することは被災地・被災者へ混乱を招くので避けるよう明示的に指示された）。この供給体制により、日本を含む国際 USAR チームは非常に円滑に活動を進めることができた。2 月 25 日には、各国際チーム

のロジスティクス担当者を集めた調整会議がニュージーランド側により開催された。

### 3) 食料・食事

Bo0 にフィールドキッチンを設定し、業務調整員が主体となって、常時、食事、飲物を隊員へ供給する体制を維持した。

なお、第一陣の活動開始直後から、地元教会系団体が Latimer Square 内にフィールドキッチンを設定して、軽食、飲料を全 USAR 隊員へ無償で供給しており、中途からニュージーランド政府の契約業者による本格的な食堂に置換された。JDR 隊員も大いに恩恵を受けるとともに、ニュージーランドや他国のチームメンバーとの情報交換や交流も促進された。一方、隊員からの要望もあり、Bo0 での JDR 独自の食事提供も上記のとおり維持した。また、在留邦人有志から、おにぎり等の差し入れも受けた。

なお、JDR が本邦から携行した食料は標準どおり 3 日分であり、活動途中で補給が必要となった。上記②の体制によりニュージーランド側へ食料供給を依頼することもできたが、東京（JDR 事務局）とも協議のうえ、追加 4 日分を成田倉庫備蓄から航空貨物として輸送手配し、2 月 27 日に現地で受領した。

### 4) 通訳

GTV ビルでは、ニュージーランド警察（現場統括）、豪州 QLD 隊、地元重機オペレーターと頻りに作業段取りを打ち合わせながら慎重に活動を進める必要があったため、業務調整員が常時 1 名、中隊付きとして現場通訳に当たった。なお、ホットゾーン内での業務であることから、地元通訳の備上は選択しなかった。

同業務は、現場での円滑な部隊活動に不可欠であった一方、業務を担う JICA 職員はホットゾーンにおける活動や遺体収容の未経験者であるため、心身の安全管理に今後の課題を残したといえる。

### 5) 機材メンテナンス

搜索救助機材のメンテナンスは、基本的には、各小隊の機材担当隊員 1 名（メンテナンス会受講済者を指定）が中心となって対応した。主な機材は現場近傍に集積し中隊シフトに関わらず継続して使用、不調となった機材のみシフト交代時に Bo0 へ持ち帰って交換した。また、Bo0 側においても業務調整員が機材管理を後方支援する体制を取った。

## (2) 第二陣

### 1) Bo0

第一陣が設置した Bo0 をそのまま使用した。第一陣では不足していたロジテントの追加分を第二陣が携行したが、各国のチームが敷地内に Bo0 を展開していたため、宿泊設備は増設しなかった。

### 2) 物資補給

第一陣同様、物資の補給は、ニュージーランド側からの供給を基本とした。なお、第二陣は、個人装備品（PPE）などの活動資材の補給分を携行したため、ニュ

ーギーランドのロジに頼る部分は最小限にすることができた。

3) 食料・食事

第二陣も第一陣同様、Bo0 の JDR フィールドキッチン、ニュージーランドのフィールドキッチンを併用し、食事を取った。また、日本政府対策本部から数回にわたり、弁当の差し入れもあった。第二陣が本邦から携行した食料のほか、第二陣が活動し始めてからは、市中のスーパーも通常営業となったため、野菜等を購入し、食事にバラエティーをもたせることができた。

4) 通訳

第一陣同様、通訳は、業務調整員が常時 1 名、中隊付きとして現場通訳にあたった。第二陣活動時も遺体収容があり、ホットゾーンにおける通訳者の活動は今後の検討課題である。

5) 機材メンテナンス

機材メンテナンスは第一陣と同様の形態をとった。第二陣は完全撤収となるか第三陣派遣による引継ぎがあるかはっきりしなかったため、活動後半に使用頻度の低い機材を中心に、整備・パッキングを行った。

6) 機材の返送

第二陣にて完全撤収することも想定されていたので、日通ニュージーランド及び日通オーストラリアと連絡を取り、機材返送の準備を進めた。日通クライストチャーチ代理店は被災しており、支援要員の多くはオークランド、シドニー、メルボルンの各支店からの出張者であった。日系輸送業者を活用することは、現場での業務軽減に非常に有利であるが、撤収時期が決定しないと実働できないため、業者に多くの負担を強いることとなった。

(3) 第三陣

1) Bo0

第二陣と同じ。

2) 物資補給

第二陣と同じ。

3) 食料・食事

第二陣と同じ。

4) 通訳

第三陣の業務は倒壊ビルからの、物品の運び出しが主だったため、遺体回収はなく、通訳業務を行った業務調整員に、心的負担はなかったと思われる。

5) 機材メンテナンス

機材の使用頻度も低く、機材トラブルはほとんどなかったため、メンテナンスは撤収機材の清掃パッキングが主であった。

6) 機材の返送

機材の返送は、第二陣で手配した日通ニュージーランド及び日通オーストラリアを通じ実施した。撤収時期が週末を挟み、金曜の夕方まで撤収日が決定しなか

ったため、最終決定を待たず返送手配を行う必要があった。現地事情にかんがみ  
ての決定であったが、ぎりぎりになっての決定は現場での作業に遅れを来すと  
ともに業者への負担を強いることとなった。

## 6 中隊長

### (1) 第一陣：第二中隊長 警視庁 清水邦彦

初めて中隊長を務めました。IECを受けたことにより隊員個々のJDRに対する認識  
が統一され、指揮しやすいと感じた。

#### 1) 出発から活動開始まで

- ① 事前に研修訓練で第一陣の五十嵐中隊長と顔を合わせていたこと。
  - ・初対面ではないので、活動までの段取りがしやすかった。
- ② 先遣隊として、五十嵐中隊長を含めて先発し現場を見ていたこと。
  - ・現場の状況、特徴を迅速に把握できた。
  - ・バス、トラックの調達ができており、隊員、資機材の搬送が速やかにできた。
  - ・Bo0の設置場所を確保できていた。
- ③ 成田空港で4個小隊の編成が速やかに作成でき、日本チームとしての編成がで  
きあがった。
  - ・飛行機内で顔合わせができたうえ、各隊員の役割を決めることができた。
  - ・活動開始時には、小隊長を中心とした意思の疎通が取れつつあった。
- ④ 各小隊長を含め、中隊長の指揮下に進んで入ってくれた。
  - ・各所属の考え方の違い、プライド、技量など、いろいろ言いたいことや主張し  
たいことがあったにも関わらず、グッと押さえてくれていたので、中隊長とし  
て調整しやすかった。

#### 2) 活動時

- ① 活動場所の決定が早かった。
  - ・余計なストレスを隊が感じずに済んだ。以後の活動に大きく影響した。
- ② 自分を含め、レスキュー隊員自身の語学力が不足していた。
  - ・JICA 調整員や医療班の方々のサポートのおかげで他チームとの調整連携が図れ  
た。
- ③ 発災から72時間を超えての、連続活動に不安があった。
  - ・正直、隊員の体調や受傷事故を考慮すると不安はあった。
  - ・連続して活動したことにより、隊員の緊張感を持続できたうえ、邦人保護の観  
点からもよかった。
  - ・これまでにない活動内容であり、長時間連続して活動したことに関し隊員らが  
自信をもてた。

#### 3) 活動に付随すること

- ① 食事、待機場所は十分すぎるほどであった。
  - ・JICA 調整員や医療班の方々の気遣い、更には食事が充実していたので、ストレ  
スを軽減できた。
- ② 副団長からの指示の場を設けるべきであった。

- ・中隊長自身が提案すべきであったが、中隊ごと、小隊ごとでも調整をし、情報共有の場を兼ねた時間を取るべきであった。
- ③ 体調を崩す者が出なくてよかった。
- ・各自が健康管理に留意したこと、及び、周りのサポートが充実していたことから、体調を崩してチーム活動に影響を与えることなく、活動ができた。

以上、全体として活動は上手くいったと感じています。

- ・ チーム編成、
- ・ 機材搬送、
- ・ Bo0 の設営、
- ・ 活動場所の確保及び活動ローテーション
- ・ 他チームとの連携
- ・ 健康管理
- ・ チーム全体の団結

など、中隊長としては、今回の派遣は申し分ないと感じました。隊員も自所属では、さらに成長して活躍していることと思います。

私自身、2003 年から JICA 国際緊急援助隊事務局に派遣され、JDR 業務に関わっていましたが、IEC 受検に伴い各省庁の連携が一層強くなったと感じましたし、この共通の認識が大きな要因だと思います。

今後も、訓練を通じて各省庁との情報共有を図っていただきたいと思います。

## (2) 第一陣：東京消防庁 五十嵐幸裕

東京消防庁から JDR の派遣は今回で 18 回目だと聞きました。先進国への派遣となった今回は、日本から多くの留学生を受け入れていたランゲージスクール「キングスエデュケーション」で日本人 28 名を含む 100 名余の方が犠牲になった悲劇の場所への派遣となりました。

邦人救助が日本国としての急務になったことから、先遣隊による先行調査及び本隊受け入れ準備というスピーディな派遣の流れとなったようです。出発時の成田空港には、閉じ込められている日本人学生からのメールが話題になったからか各報道機関も多く、その期待の大きさが伝わってきました。

翌日到着したクライストチャーチの現場は、7 階建てのビルがパンクラッシュ状態であり、まさかこの中に多くの方が本当にいるのかと信じ難い状況で、被害を免れた英国建築様式の建物、美しい街並みの中で「なぜこのビルだけがこんなに大きい被害に遭ったのか」と悲哀を感じずにはいられませんでした。

今回の現場は、閉鎖空間での救助 (Confined Space Rescue : CSR) 等のハイレベルな技術を要する場面は少なく、折り重なるスラブを重機との、大胆かつ繊細な共同の活動により救助捜索活動を行いました。隊員個々の士気は極めて高く、常に自らを律し、昼夜を分かたず力を尽くしましたが、皆さんを救出することが叶わず本当に残念でした。

この派遣では、これからの災害派遣等に、役立てて行くべきことも数多くありました。今回は閉鎖空間での医療（Confined Search Medicine：GSM）の活動局面こそなかったものの、医療関係者の方々の存在は、我々にとって不安の地での拠り所でありました。

特に、長期間の派遣活動、様々な環境の変化による隊員個々のメンタル面にまで気に留めていただくなど大きな安心感をいただき、心よりお礼を申し上げます。また、ニュージーランドでの除染は大変勉強になりました。遺体の時間経過による損傷が与える感染問題、蔓延を防御する認識については、ニュージーランドだからなのか？ 欧米では当たり前なのか？

ベースキャンプ出入口の区分、合理的システム、二重三重の除染に関する対策は脱帽でした。更には、遺体を扱う際に渡される対感染防護キットには、腐臭を紛らわす鼻腔吸入式のミントのグッズなども用意されており、心底恐れ入りました。遺体収容等に係る精神的ダメージのケアでもあり、この合理的な物心両面の在り方は大いに学ぶべきものと思います。

驚きは、検視を含むご遺体の扱い、報道規制の素早い対応、各国活動部隊を賄う食糧事情や、リラクゼーション用のマッサージルーム、シャワールーム、休憩中のキャンプサイトでラグビーに興じる姿など様々ありましたが、トイレ事情には特に驚きました。被災地派遣ではトイレ問題は目立たないものの苦しむ人が多い大きな問題です。ニュージーランドでは、先遣隊到着時から次々に仮設トイレを増設、毎日定時にバキューム車で処理し、水洗いの後、悪臭を抑える魔法の液体をたっぷり入れてくれる。トイレ事情のすごさは特筆すべきであり、日本でも最優先に見習うべきである。いささかサイズがビッグでお尻がすっぽり入ってしまうが、ニュージーランドの仮設トイレには間違いなく「トイレの神様」がいた気がしました。

最後に、以前、国際消防救助隊（IRT）を担当していた方が「皆さんも派遣に行って英雄になりましょう」とのたまひ盛り上がっていたことがありました。正直とても嫌な気持ちになったことを覚えています。しかし、この派遣では誰一人驕ることなく「本物は決して驕ることない」と改めてうれしくなりました。消防を生業として、人様のために尽力する。皆様からの感謝は心に留め、決して驕らず、職責を果たすのみ。消防の魂は健在でした。

残念ながら、救助活動が完結する前に二次派遣隊と交替することは断腸の思いもあり、被災された方々皆さまに対し一日も早い救助をなし得ず、申しわけない気持ちでいっぱいでした。

多くのお亡くなりになった方々、多くの家族、関係者の皆様に、私たちができたことは何であるか、果たしてお役に立てたのであろうかそれはわかりませんが、心からご冥福をお祈りいたしますとともに、お悔やみ申し上げます。

最後の最後で恐縮ですが、消防庁、大使館関係及び JAL 現地担当の皆様はじめ、吉井団長、活動隊が救助活動に専念できるようバックアップしていただいたスタッフの皆様にご心からお礼申し上げますとともに、派遣された素晴らしい活動部隊員の皆様と一緒に無事に派遣を終え帰国できましたことに改めて感謝申し上げます。

(3) 第二陣：東京消防庁 竹泉聡

初めにニュージーランド南島地震災害におけるCTVビル倒壊に伴い犠牲となられた28名の邦人の方々をはじめ各国の方々に対して心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、同地震災害で被災されたニュージーランド国の皆様へお見舞いと一日も早い復興を衷心よりお祈り申し上げます。

第二陣派遣隊の中隊長に任命され、被災地における人命救助と派遣隊員の安全という重責を自らの心の中で痛切に感じながらその任に就きました。派遣を通じて生存者の救出できなかったことは痛恨の極みでしたが、諦めることなくCTVビルをグラウンドゼロに至るまで検索救助及び瓦礫の排除を継続するという第二陣派遣隊としてのミッションを遂行できたのは、沼田団長を中心とした中越副団長をはじめとする4人の副団長による適時適切な下命とすべての情報の提供、ロジ面を担当した隊員の誠心誠意の籠った後方支援、そして救助技術、体力、精神力の高い16名の隊長をはじめとする隊員の糸乱れぬ連携など第二陣派遣隊内の信頼関係の賜物と確信している。

さて、派遣を通じて強く感じたことの何点かを今後の派遣と国内における大規模災害等における活動の参考になればと思い書き記しておきたい。

第一に、JDRとしてIEC受検以降の指揮体制や後方支援体制が非常によく整備され、そして機能していることが挙げられる。特に後方支援については、活動部隊が活動に専念できるように食・生活環境を常に整え気持ち良く対応にあたってくれたことが挙げられる。

第二に、ニュージーランドUSARの受援体制と活動に対する後方支援体制の熟考された対応と早い体制整備である。

被災区域があまり広大でないことなどある程度の条件はあったかもしれないが、広域の立入禁止区域を速やかに指定し、マスコミを含めた厳しい立入制限を行うとともに、自国のみならず各国の救助チームのBoOを被災地のほぼ中心部の公園内に集中して開設させ更に厳重な警戒と感染防止のための除染対応を各国救助チームに徹底を図っていた。これにより各国の隊員達は活動に専念できたと思う。また、後方支援体制については、簡易トイレの速やかな設置と衛生面の徹底した対応、そして食に関しては無料で何時でもどの国の救助チームも活用できるレストハウスの開設、その他にも個人装備品を含む資機材を給付するテントの設置など発災後1週間で、これらの体制がしっかりと整備されていた。

第三として、第一次派遣隊の派遣時における移動手段に政府専用機が活用されたことである。これは被災国への速やかな移動という点で非常に効果的な対応であり、今後の迅速な派遣への大きな一歩になると思われる。

結びとして、本派遣を通じて日本チームにご支援いただいたニュージーランド大使館の皆様、そして入国に際して心からの拍手により迎えていただいたニュージーランドの皆様へ心から感謝申し上げます。私の手記としたい。

(4) 第三陣：東京消防庁 竹内吉彦

3月6日、日曜の午前中に東京消防庁警防部から私に第三次派遣隊中隊長としての派

遣の連絡が入り、急いで登庁し、慌しく派遣準備に入った。その日の夕刻には成田を発ち、翌日、現地時間の14時過ぎにクライストチャーチの各国 Bo0 がある LATIMER SQUARE に到着し、第二次派遣隊からの引き継ぎ受け、12日までの7日間、国際緊急援助隊の最終派遣隊として活動した。

当地の活動は、我々の現地到着と前後して CTV ビル現場の搜索救助から CTV ビル以外の市内建物内の最終搜索・解体のオペレーションに移行していた。8日、初日の活動は、Bo0 から南東12kmにある Sumner Museum (博物館) の建物内に残されていた展示品を USAR 及び現地消防と共同で搬出する活動だった。既に人命検索は現地機関により終了しており、建物構造は赤(危険)と評価されていた。第三次隊の構造評価の川端氏から外壁レンガの崩落危険があること及び建物自体が倒壊する危険性はないとの判断を得て、現地の USAR と活動調整を実施した。その後、USAR が手配した民間大型トレーラー・クレーン車が到着し、長さ約15m、直径1.5mの巨大な鉄管が運び込まれ、クレーンで博物館の玄関に鉄管の先端を入れ、余震警戒を実施しながら鉄管の中を通して内部の展示品を搬出した。

博物館前面の幹線道路は USAR の判断で即刻、通行止めとされ、鉄管により外壁崩落に対する安全を確保したうえで活動した。搬出したすべての展示品は警察官による写真撮影のあと、鉄管トンネルの先端で待ち受ける大型コンテナに搬入し、大胆かつ効率的な作戦により大型コンテナ(5トン)2台分の数千点に及ぶ展示品の搬出作業を3時間程度で終わらせることができた。

日本隊の活動の様子は現地 USAR から OSOCC に逐一報告され、我々の活動に対して高い評価を得て、ニュージーランド側との信頼関係を築くことができた。帰国まで、余震が頻発するなかでニュージーランド隊またはオーストラリア隊と合同で市内8カ所の一般市民が立ち入れない危険な建物の搜索等に従事したが、一人の故障者を出すことなく帰国できたことは一人ひとりの JDR 隊員としての自覚と日頃の訓練成果の現れであり、各隊員に対し敬意を表するとともに中隊長として感謝している。

今回の活動では、ニュージーランド側の柔軟かつ充実した各国援助隊の受入れ体制、活動支援、活動調整の在り方など参考となる点が多くあった。今後、JDR の派遣経験を重ね、JDR の体制や我が国の防災体制が更に充実することを望みたい。

帰国前日の11日、18時過ぎに我々のもとに東日本大震災の発生が知らされ、12日夕刻、成田に無事到着した第三次派遣隊員は、東日本大震災に対応するため、速やかに派遣元に復帰していった。第三次派遣隊隊員はニュージーランドでの活動に引き続き、休む間もなく、それぞれの持ち場で、全力で東日本大震災の対応に取り組んでいたであろうし、いまだに活動している隊員もいるかもしれない。消防、警察、海上保安庁という組織母体は別であってもニュージーランド で共に活動した隊員の皆さんが元気に活躍されていることを祈念している。

私事だが私の三人の娘達はニュージーランド北島のワカタネ市にホームステイで滞在した経験があり、我が家でもニュージーランドの子供たちをホームステイで受け入れるなどニュージーランドは我が家にとって関わりの深い身近な国であった。

そのようなニュージーランドでの活動の機会を与えていただいた東京消防庁、総務省消防庁幹部の皆様、派遣期間中に様々な形で支援をいただいた東京消防庁職員、中

隊長の私を支えていただいた隊員各位に心からお礼を申し上げます。

### 3-7 医療班

#### (1) 第一陣：福島憲治 医師

IEC heavy 認定後初の派遣となった今回の医療班は、5人体制（メディカルマネージャー（MM）1名＋中隊付医師看護師各2名計4名）での派遣となった。

成田空港では、定型化された内容の活動を実施。全隊員のメディカルチェックを派遣医療班4名と有志サポートが実施。MMは副団長JICAとの情報共有と班編成にあたった。

今回の移動手段は政府専用機であり、移動中の会議や救助隊員とのやり取りのやりやすさはチャーター機同様好印象であった。政府専用機スタッフも協力的であった（救助隊員のなかに、ウニの棘を足裏に刺して参加した隊員がいて、機内にて抜棘術を行ったが、政府専用機スタッフにカッターナイフの提供をしていただいた）。ただし機内の医療物品を見せていただいたが、最低限（蘇生セットとして気道確保と薬剤 市販薬）のものであった。

被災地到着後、先遣隊の団長一行と合流し、BoO 設営となった。JDR としても食事提供準備と手洗い場、除染場の設置を励行をしたが、ニュージーランド側から衛生面の強い要望が出たことから、ニュージーランド側からの食事提供受け入れと除染テントの設置を追加した。2月の現地の気候から熱中症発症が疑われる状態ではなかったが、活動状況から水分補給の徹底を促した。現場活動においては指揮エリアに休憩所の設置をし、隊員サポートに務めた。

医療班受診人数は、派遣中10人程度であった。ほとんどが擦過創や眼症状などの軽症であったが、現場活動中釘踏み抜きの1症例があった。ニュージーランド側へ問い合わせ、破傷風トキソイドの接種が受けられる医療施設を紹介してもらい実施した。先進国でありトキソイドの有効性は保証されると判断した。創部は開放し洗浄デブリドマン実施。縫合せず、開放創での創管理とした。抗生剤の点滴を3日間行い、感染徴候を認めなかったことから中止し、その後も創部の観察をしたが悪化は認めず。帰国後の隊員に紹介状を持たせ受診継続を指示した。先進国での対応であったことから対応はスムーズとなったが、予防接種の重要性はもっと強調してよい。

チーム撤収時は、JDR 救助チーム第二陣の到着を待ち、医療班としても引き継ぎを行った。クライストチャーチの休憩施設にて全隊員の帰国前問診を行った。帰国便も政府専用機であり、出国の手続きや待機時間等で有利であった。

今回の派遣を通じて改善すべき事項は以下のとおり。

- ・USAR 管理上衛生管理を強く要求された。JDR としても BoO 入口での除染作業等検討に値する内容であった。今後技術検討委員会等で討議の必要あり。
- ・指揮本部運営体制は IEC に当たり作り上げたわけであるが、今回の派遣においてその体制を実行できなかったのは残念である。指揮本部研修も立ち上がっていることから MM も含めた形で指揮本部運営を支えていきたい。
- ・検視はニュージーランド警察の管轄で、当チームに要求される点はなかった。た

だし先進国であるニュージーランドの場合であって、明らかに個体特定のための検体保護に問題が生じる国であった場合についてはどういった検討がされているのか、確認が必要である。

今回の派遣経験では、他国の heavy team の活動内容を 24 時間見ることができた点が重要な 1 点であった。まだまだ改善していかなければならない点があり、他国の状況の視察等は十分利益があると思われた。

## (2) 第二陣：井原則之 医師

- 1) 活動期間：2011 年 2 月 28 日～3 月 8 日（9 日間）
- 2) 診療実績：診療件数 5 件
- 3) 診療内訳：不眠 2 件 創傷 1 件 呼吸器症状 1 件 眼症状 2 件
- 4) 活動概要

生存者救出は現場の状況から非常に困難となり、遺体捜索活動が主になることは出発時から予想され、救助隊員の活動に対するモチベーション維持を気に留めながらの派遣となった。しかしながら、派遣時から倒壊ビル捜索をやり切るという明確な目的が存在していたことと、3 月 5 日にビル捜索活動をやりきったこともあり、救助隊員の活動意欲は医療班がさほど心配することもなく維持されていた。

また、中・小隊長指示による隊員の除染・手指洗浄・うがいが徹底され、衛生管理にも医療班が強く介入する必要もないほどであった。活動当日から現場テントでの衛生管理を徹底していたことも効果があったと思われる。

現地に入ると、ニュージーランド現地対策本部及び JDR 救助チーム第一陣により生活領域の整備が整っており、これも隊員へのストレス軽減に非常に役立った。

例) 救助服のクリーニング・DECON エリア設定・シャワー設備・臭わないトイレ・カフェテリア・無料国際通話・無線 LAN・マッサージ・各国隊員間の自然発生的な交流や T シャツ交換 など

派遣中には全救助チームのメディカルチームミーティングも 2 時間ほど行われた。各国の救助チーム組織の特徴と移動手段（軍用機の使用）、メディカルチームの構成（身分）などを紹介しあう場であった。

## (3) 第三陣：畑倫明 医師

- 1) 活動期間：2011 年 3 月 6 日～3 月 12 日（7 日間）
- 2) 診療実績：診療件数 17 件（再診含む）
- 3) 診療内訳：皮膚疾患 7 件、創傷 4 件、熱傷 1 件、不眠 4 件、消化器疾患 1 件
- 4) 活動内容

第三陣は発災後 12 日経過してからの派遣であり、生存者救出の可能性は極めて低い状況であった。このため、医療班の活動は、活動成果が上がらないことによる隊員のストレスを軽減し、モチベーションが上がらないことによる事故の発生を予防することに主眼を置いた。出発時、成田空港におけるブリーフィングでストレスマネジメントの方法を隊員全員に周知し、現地では隊員個々に対するケアを心がけ

た。幸い、大きな事故はなく、帰国時に行ったメディカルチェックにおいて、問題のある隊員は認められなかった。

### 3-8 構造評価

#### (1) 第一陣：水野和男 専門家

CTV ビルの崩壊現場のエレベータシャフトは当初から、倒壊の危険は“ない”と判断していたが、がれきの撤去が進み、最下層が現れると「開口部がある」ことに気がつき、オーストラリアのエンジニアと相談し、共に入ってみることにした。結果、火事による損傷も小さく、ひび割れも確認できなかったことから転倒の危険は“ほぼ”ないと判断した。

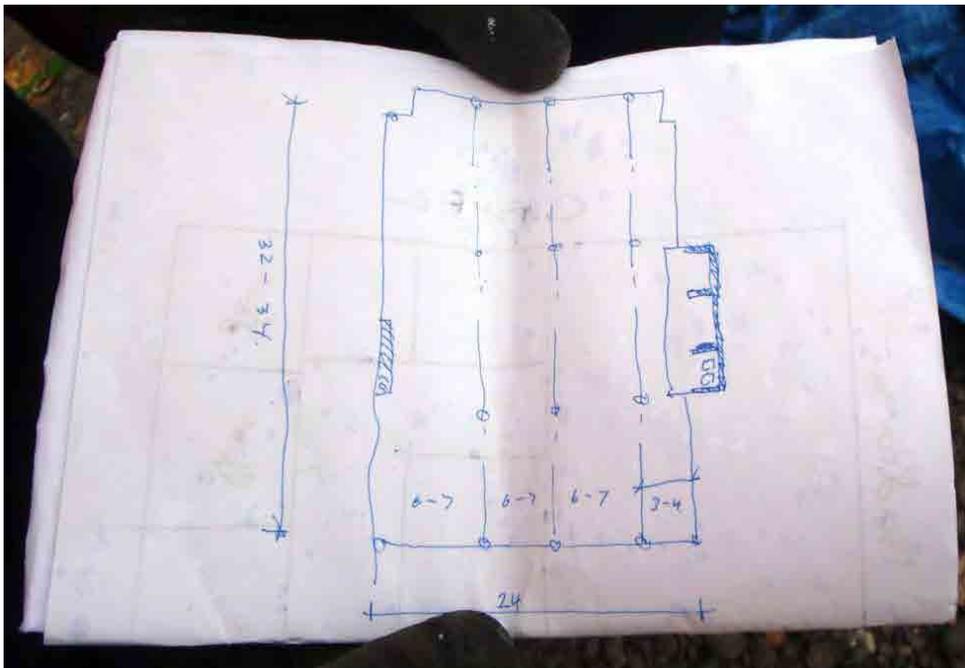
危険度を判断するのに、倒壊前の状況を想定する必要があるが、損傷が激しく、倒壊前を想定できなかったが、オーストラリアのエンジニアが手書きの平面図を見せてくれ、だいたい想定ができた。

地元エンジニアとの情報交換は重要であると感じた。

反省点として、エレベータシャフトに、もたれるように立っていた2本の梁？を取り除くことが遅れた。一見して、余震で転倒の危険があると思いながら、クレーンオペレータに指示するタイミングを逸していた。

エレベータシャフトの転倒が懸念されるため、ニュージーランドチームは、トランシットを設置して、頂部の定点測定をしていた。「倒壊の前兆を感知するため」に有効な機器と思われるため、ぜひ装備品に加えていただきたい。

「構造評価専門家」の派遣は、二次被害を防止するためにも有効と考えられるので国内の災害にも同じような制度が整備されることを望んでいます。



オーストラリアのエンジニアによる CTV ビルの手書きの平面図

## (2) 第三陣：川端憲敏 専門家

構造評価専門家は、登録制度の発足以来初めて、今回の第一陣及び第三陣メンバーとして派遣が実現した。

第三陣における構造評価の任務は、規制区域内外の公共建築物等の解体撤去のための最終調査及び貴重品回収などの部隊活動時に、建物の状態や危険を部隊に助言することであった。ほぼ一小隊ずつの活動であったことから、すべての活動現場に同行することができ、それらの建物の状態を確認することができた（添付写真参照）。

建物は半壊状態のものが多く 内部空間が維持されていて隊員が建物内に進入し活動するというものであり、余震などが発生すると建物の崩壊などの危険も疑われる状態であった。危険については、中隊長に進言し、活動時の危険についての回避措置を取りながら活動を行い、何事もなくすべての活動を終了することができた。

今回は、活動が 2 カ所同時ではないため、構造評価専門家が一人ですべての建物を目視し、適切な助言を行うことができたためよかった。一方、同時に何カ所もの活動拠点で活動することになると、構造評価専門家が目視できない状態での判断は非常に難しく隊員内において適切に現場状況を説明できる人員を増やす必要もあるかと思われる。

今回構造評価としての説明した注意点は次のとおり。

- ・煉瓦造の建物が多く、倒壊していない建物の場合、調査・搜索などの時点において建物周辺での壁材（煉瓦）や屋上周囲の突起物（パラペットなど）の落下による危険性の徹底
- ・外壁が煉瓦造のため床の支持部分（4 周辺）が支持できずに残っている場合など、2 階以上への進入の場合、また下階での作業中の床落下の危険性の判断及び隊員への注意喚起
- ・建物外観の被害の違いによって、余震などでそれ以降起きる可能性のある建物の倒壊危険性（柱がせん断破壊（窓横などでの X 型ひび割れなど）か、曲げ破壊（せん断破壊よりは粘りがある）など）の説明

〈添付写真〉

主な活動場所



Sumner 博物館



glougestar ビル



Bedford

## 付 属 資 料

1. 活動日程
2. メンバーリスト
3. ニュージーランド側の捜索救助本部
4. OSOCC資料

1. 活動日程

ニュージーランド南島地震被害 JDR活動時系列

2011年6月27日  
国際緊急援助隊事務局作成

日付	日本時間	現地時間	救助チーム	専門家チーム
2月22日	火	8:51	12:51	クライストチャーチ市南東10キロでM6.3の地震発生(深度10キロ)
		18:10		在京NZ大使より緊急支援の要請
		18:30		調査チーム 成田発
		19:00		国際緊急援助隊救助チームの派遣決定
2月23日	水	12:50	12:50	調査チーム クライストチャーチ着
		14:10		救助チーム 第1陣 成田発
2月24日	木	4:16	10:50	救助チーム 第1陣 クライストチャーチ着
		5:44		救助チーム 第1陣 捜索救助活動開始
2月25日	金	5:44		NZ政府より心のケア及び鑑識専門家チームの要請
		18:30		心のケア及び鑑識専門家チームの派遣決定
				専門家チーム 第1陣(心のケア) 成田発
				専門家チーム (警察鑑識) 成田発
2月26日	土	12:50	12:50	専門家チーム 第1陣(心のケア) クライストチャーチ着
				専門家チーム (警察鑑識) クライストチャーチ着
				専門家チーム 第1陣(心のケア) 活動開始
				専門家チーム (警察鑑識) 活動開始
2月28日	月	7:30		NZ政府より、救助チーム交代要員(第2陣)の要請
		10:00		救助チーム交代要員(第2陣)の派遣決定
		18:30		救助チーム 第2陣(先発組) 成田発
3月1日	火	12:20		救助チーム 第1陣 捜索救助活動終了
		18:30		救助チーム 第2陣(先発組) クライストチャーチ着
				救助チーム 第2陣(後発組) 成田発
3月2日	水	12:20		救助チーム 第2陣(先発組) 捜索救助活動開始
				救助チーム 第2陣(後発組) クライストチャーチ着
				救助チーム 第2陣(後発組) 先発組に合流
		21:55		救助チーム 第1陣 クライストチャーチ発
3月3日	木	8:50		救助チーム 第1陣 成田着
				NZ政府より、救助チーム交代要員(第3陣)の要請
				NZ政府より心のケア専門家チーム(第2陣)の要請
				心のケア専門家チーム(第2陣)の派遣決定
3月5日	土	5:40		救助チーム交代要員(第3陣)の派遣決定
		14:30		専門家チーム 第2陣(心のケア) 関空発
		16:25		専門家チーム (警察鑑識) 成田着
3月6日	日	8:02		専門家チーム 第2陣(心のケア) クライストチャーチ着
		18:30		専門家チーム 第2陣(心のケア) 活動開始
				救助チーム 第3陣 成田発
				専門家チーム 第1陣(心のケア) 活動終了
3月7日	月	5:40		専門家チーム 第1陣(心のケア) クライストチャーチ発
		14:10		救助チーム 第2陣 捜索救助活動終了
		14:45		救助チーム 第3陣 クライストチャーチ着
		16:25		専門家チーム 第1陣(心のケア) 成田着
3月8日	火	5:40		救助チーム 第3陣 捜索救助活動開始
		16:15		救助チーム 第2陣 クライストチャーチ発
				救助チーム 第2陣 成田着
3月11日	金			救助チーム 第3陣 捜索救助活動終了
				専門家チーム 第2陣(心のケア) 活動終了
3月12日	土	5:40		救助チーム 第3陣 クライストチャーチ発
		16:45		救助チーム 第3陣 成田着
		20:20		専門家チーム 第2陣(心のケア) クライストチャーチ発
		7:30		専門家チーム 第2陣(心のケア) 成田着

※掲載チーム《計7チーム》

- ・緊急調査チーム
- ・救助チーム第1陣
- ・救助チーム第2陣
- ・救助チーム第3陣
- ・専門家チーム第1陣(心のケア)
- ・専門家チーム第2陣(心のケア)
- ・専門家チーム(警察鑑識)

## 2. メンバーリスト

ニュージーランド南島での地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第一陣  
Japan Disaster Relief Team the Earthquake in New Zealand  
(派遣期間：2011年2月23日～2011年3月3日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
* 1	吉井 幸夫 Mr. YUKIO YOSHII	外務省国際協力局緊急・人道支援課 Overseas Disaster Assistance Division Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	片田 佳弘 Mr. YOSHIHIRO KATADA	警察庁長官官房国際課 National Police Agency	副団長 Sub-leader
3	中本 敦也 Mr. ATSUYA NAKAMOTO	総務省消防庁 Fire and Disaster Management Agency	副団長 Sub-leader
4	渡辺 博史 Mr. HIROSHI WATANABE	海上保安庁警備救難部救難課 Japan Coast Guard	副団長 Sub-leader
* 5	神内 圭 Mr. KEI JINNAI	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	副団長 Sub-leader
6	吉田 浩二 Mr. KOJI YOSHIDA	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
7	本田 哲也 Mr. TETSUYA HONDA	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
8	大牟田 義真 Mr. YOSHITSUGU OMTA	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救助犬ハンドラー Rescue Dog Handler
9	杉本 雅彦 Mr. MASAHICO SUGIMOTO	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救助犬ハンドラー Rescue Dog Handler
10	村上 四皇 Mr. ATSUO MURAKAMI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救助犬ハンドラー Rescue Dog Handler
11	関根 正彦 Mr. MASAHICO SEKINE	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救助犬ハンドラー Rescue Dog Handler
12	清水 邦彦 Mr. KUNIHICO SHIMIZU	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
13	菅原 健二 Mr. KENJI SUGAWARA	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
14	三橋 秀匡 Mr. HIDEMASA MITSUHASHI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
15	菊地 真 Mr. MAKOTO KIKUCHI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
16	高村 進 Mr. SUSUMU TAKAMURA	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
17	江藤 隆文 Mr. TAKAFUMI ETO	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
18	伊藤 徳俊 Mr. NARUTOSHI ITO	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
19	伊藤 茂 Mr. SHIGERU ITO	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
20	山崎 泰正 Mr. YASUMASA YAMAZAKI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
21	土門 孝 Mr. TAKASHI DOMON	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
22	館 喜之 Mr. NOBUYUKI TATE	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
23	岸 一智 Mr. KAZUTOMO KISHI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
24	林 潤平 Mr. JUMPEI HAYASHI	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
25	宮川 康治 Mr. KOHJI MIYAGAWA	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue
26	三浦 基文 Mr. MOTOFUMI MIURA	警視庁 Tokyo Metropolitan Police Department	救急救助 Rescue

\* 緊急援助調査チームより編入

ニュージーランド南島での地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第一陣  
 Japan Disaster Relief Team the Earthquake in New Zealand  
 (派遣期間：2011年2月23日～2011年3月3日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
* 27	五十嵐 幸裕 Mr. YUKIHIRO IGARASHI	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
28	甲斐 康仁 Mr. YASUHIRO KAI	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
29	鎌仲 修実 Mr. OSAMI KAMANAKA	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
30	吉永 忠司 Mr. TADASHI YOSHINAGA	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
31	岡野 幸三 Mr. KOZO OKANO	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
32	萩原 良幸 Mr. YOSHIYUKI HAGIWARA	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
33	桑田 稔 Mr. MINORU KUMEDA	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
34	倉貫 真一 Mr. SHINICHI KURANUKI	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
35	中野 伸吾 Mr. SHINGO NAKANO	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
36	石橋 伸広 Mr. NOBUHIRO ISHIBASHI	千葉市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
37	小島 智也 Mr. TOMOYA KOJIMA	千葉市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
38	中村 仁 Mr. JIN NAKAMURA	千葉市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
39	石原 英朗 Mr. EIRO ISHIIHARA	相模原市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
40	前村 壮勇 Mr. TAKEO MAEMURA	相模原市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
41	橋 裕治 Mr. YUJI TACHIBANA	高松市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
42	藤澤 健治 Mr. KENJI FUJISAWA	高松市消防局 Fire and Disaster Management Agency	救急救助 Rescue
43	今野 昌人 Mr. MASATO KONNO	宮城海上保安部くりこま Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
44	後藤 英俊 Mr. HIDETOSHI GOTO	横浜海上保安部いず Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
45	中澤 克元 Mr. KATSUMOTO NAKAZAWA	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
46	増井 雅和 Mr. MASAKAZU MASUI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
47	向井 貴深 Mr. TAKAMI MUKAI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
48	車田 務 Mr. TSUTOMU KURUMADA	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
49	加藤 大輔 Mr. DAISUKE KATO	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
50	畑崎 仁 Mr. JIN HATAZAKI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
51	澤田 晋作 Mr. SHINSAKU SAWADA	鳥羽海上保安部いすず Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
52	八尋 成庸 Mr. MASANOBU YAHIRO	呉海上保安部みささ Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
53	本田 重藏 Mr. JUZO HONDA	長崎海上保安部でじま Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
54	柳田 孝一 Mr. KOICHI YANAGITA	第十一管区海上保安本部くだけ Japan Coast Guard	救急救助 Rescue

\* 緊急援助調査チームより編入

ニュージーランド南島での地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第一陣  
 Japan Disaster Relief Team the Earthquake in New Zealand  
 (派遣期間：2011年2月23日～2011年3月3日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
55	福島 憲治 Mr. KENJI FUKUSHIMA	埼玉医科大学総合医療センター Saitama Medical Center	救急医療 Doctor
56	中島 康 Mr. YASUSHI NAKAJIMA	東京都立広尾病院 Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital	救急医療 Doctor
57	田中 潤一 Mr. JUNICHI TANAKA	福岡大学病院 Fukuoka University Hospital	救急医療 Doctor
58	大山 太 Mr. FUTOSHI OHYAMA	東海大学 健康科学部 Tokai University	救急看護 Nurse
59	武川 礼子 Ms. REIKO TAKEKAWA	埼玉医科大学総合医療センター Saitama Medical Center	救急看護 Nurse
60	水野 和男 Mr. KAZUO MIZUNO	水野和男構造設計事務所 Kazuo Mizuno Structure Design Office	構造評価 Structural assessment
61	大場 雄次 Mr. YUJI OHBA	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
62	渡邊 利一 Mr. TOSHIKAZU WATANABE	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
63	岡崎 裕之 Mr. HIROYUKI OKAZAKI	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
64	沖田 陽介 Mr. YOSUKE OKITA	早稲田大学大学院 Waseda University	業務調整 Coordination
65	大野 龍男 Mr. TATSUO ONO	所属先無し freelance	業務調整 Coordination
66	増田 学 Mr. MANABU MASUDA	社団法人青年海外協力協会 Japan International Cooperative Assotiat	業務調整 Coordination

**ニュージーランド南島における地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第二陣**  
**Japan Disaster Relief Team for the Earthquake in New Zealand**  
 (派遣期間：2011年2月28日～2011年3月7日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	沼田 行雄 Mr. YUKIO NUMATA	外務省国際協力局国別開発協力第一課 Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	山口 春平 Mr. SHUMPEI YAMAGUCHI	警察庁 National Police Agency	副団長 Sub-leader
3	中越 康友 Mr. YASUTOMO NAKAGOSHI	総務省消防庁 Fire and Disaster Management Agency	副団長 Sub-leader
4	山田 宏一 Mr. HIROKAZU YAMADA	海上保安庁 Japan Coast Guard	副団長 Sub-leader
5	大友 仁 Mr. HITOSHI OTOMO	JICA国際緊急援助隊事務局 Japan International Cooperation Agency	副団長 Sub-leader
6	高垣 正弘 Mr. MASAHIRO TAKAGAKI	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
7	石井 英明 Mr. HIDEAKI ISHII	北海道警察 Hokkaido Prefectural Police	救急救助 Rescue
8	日水 貴宏 Mr. TAKAHIRO HIMIZU	北海道警察 Hokkaido Prefectural Police	救急救助 Rescue
9	林中 健浩 Mr. TAKEHIRO HAYASHINAKA	北海道警察 Hokkaido Prefectural Police	救急救助 Rescue
10	山田 和史 Mr. KAZUSHI YAMADA	愛知県警察 Aichi Prefectural Police	救急救助 Rescue
11	上田 尚貴 Mr. NAOKI UEDA	愛知県警察 Aichi Prefectural Police	救急救助 Rescue
12	後藤 康紀 Mr. YASUNORI GOTO	愛知県警察 Aichi Prefectural Police	救急救助 Rescue
13	竹泉 聡 Mr. SATOSHI TAKEIZUMI	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
14	武藤 正 Mr. TADASHI MUTO	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
15	山崎 純一 Mr. JUNICHI YAMAZAKI	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
16	清水 猛 Mr. TAKESHI SHIMIZU	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
17	川村 博之 Mr. HIROYUKI KAWAMURA	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
18	小野 博文 Mr. HIROFUMI ONO	新潟市消防局 Niigata City Fire Bureau	救急救助 Rescue
19	中川 和行 Mr. KAZUYUKI NAKAGAWA	新潟市消防局 Niigata City Fire Bureau	救急救助 Rescue

ニュージーランド南島における地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第二陣  
**Japan Disaster Relief Team for the Earthquake in New Zealand**  
 (派遣期間：2011年2月28日～2011年3月7日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
20	後藤 慎治 Mr. SHINJI GOTO	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
21	上領 直人 Mr. NAOHITO KAMIRYO	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
22	櫻井 秀行 Mr. HIDEYUKI SAKURAI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
23	下 真也 Mr. SHINYA SHIMO	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
24	黒崎 久訓 Mr. HISANORI KUROSAKI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
25	井原 則之 Mr. NORIYUKI IHARA	近森病院 Chikamori Hospital	救急医療 Doctor
26	吉澤 大 Mr. DAI YOSHIZAWA	独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院 Kohnodai Hospital, National Center for Global Health and Medicine	救急医療 Doctor
27	山崎 範子 Ms. NORIKO YAMASAKI	東京医科歯科大学医学部附属病院 Tokyo Medical and Dental University Hospital	救急看護 Nurse
28	山本 裕梨子 Ms. YURIKO YAMAMOTO	兵庫県災害医療センター Hyogo Prefecture Emergency Medical Center	救急看護 Nurse
29	横井 博行 Mr. HIROYUKI YOKOI	JICA経済開発基盤部 Economic Infrastructure Department Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
30	野村 留美子 Ms. RUMIKO NOMURA	JICA公共政策部 Public Policy Department Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
31	税所 信治 Mr. SHINJI SAISHO	社団法人青年海外協力協会 Japan Overseas Cooperative Association	業務調整 Coordination
32	春原 拓也 Mr. TAKUYA SUNOHARA	社団法人青年海外協力協会 Japan Overseas Cooperative Association	業務調整 Coordination
33	大場 雄次 Mr. YUJI OHBA	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination

**ニュージーランド南島における地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第三陣**  
**Japan Disaster Relief Team for the Earthquake in New Zealand**  
 (派遣期間：2011年3月6日～2011年3月12日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	折原 茂晴 Mr. Shigeharu Orihara	外務省国際協力局事業管理室 Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	檀上 憲一 Mr. Kenichi Danjo	警察庁 National Police Agency	副団長 Sub-leader
3	大嶋 文彦 Mr. Fumihiko Oshima	総務省消防庁 Fire and Disaster Management Agency	副団長 Sub-leader
4	内田 昌宏 Mr. Masahiro Uchida	海上保安庁 Japan Coast Guard	副団長 Sub-leader
5	大友 仁 Mr. Hitoshi Otomo	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	副団長 Sub-leader
6	山根 英樹 Mr. Hideki Yamane	警察庁 National Police Agency	通信 Communication
7	井上 真吾 Mr. Shingo Inoue	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
8	伊藤 清寿 Mr. Kiyotoshi Ito	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
9	住谷 直樹 Mr. Naoki Sumiya	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
10	久保田 耕晴 Mr. Yasuharu Kubota	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
11	松本 嘉之助 Mr. Yoshinosuke Matsumoto	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
12	菅原 琢磨 Mr. Takuma Sugawara	神奈川県警察 Kanagawa Prefectural Police	救急救助 Rescue
13	竹内 吉彦 Mr. Yoshihiko Takeuchi	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
14	堅山 秋義 Mr. Akiyoshi Tateyama	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
15	瀬戸 清 Mr. Kiyoshi Seto	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
16	立石 義孝 Mr. Yoshitaka Tateishi	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
17	野村 克嗣 Mr. Katsushi Nomura	東京消防庁 Tokyo Fire Department	救急救助 Rescue
18	岸川 大輔 Mr. Daisuke Kishikawa	福岡市消防局 Fukuoka City Fire Bureau	救急救助 Rescue
19	平田 元記 Mr. Motoki Hirata	福岡市消防局 Fukuoka City Fire Bureau	救急救助 Rescue

**ニュージーランド南島における地震被害に対する国際緊急援助隊救助チーム 第三陣**  
**Japan Disaster Relief Team for the Earthquake in New Zealand**  
 (派遣期間：2011年3月6日～2011年3月12日)

No.	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
20	伊藤 努 Mr. Tsutomu Ito	釧路海上保安本部巡視船えりも Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
21	横村 学 Mr. Manabu Yokomura	高地海上保安本部巡視船とさ Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
22	上田 和徳 Mr. Kazunori Ueda	新潟海上保安本部巡視船やひこ Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
23	小山 弦太 Mr. Genta Koyama	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
24	佐野 哲也 Mr. Tetsuya Sano	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
25	畑 倫明 Mr. Michiaki Hata	奈良県立医科大学 Nara Medical University	救急医療 Doctor
26	小笠原 智子 Ms. Tomoko Ogasawara	独立行政法人国立病院機構災害医療センター National Hospital Organization Disaster Medical Center	救急医療 Doctor
27	中島 誠 Mr. Makoto Nakajima	川口市立医療センター Kawaguchi Municipal Medical Center	救急看護 Nurse
28	川端 憲敏 Mr. Noritoshi Kawabata	建物蔵部 Tatemonokurabu	構造評価 Structural engineer
29	魚谷 弥生 Ms. Yayoi Uotani	JICA国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
30	三村 悟 Mr. Satoru Mimura	JICA東南アジア第一・大洋州部 Southeast Asia 1 and Pacific Department Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
31	税所 信治 Mr. Shinji Saisho	社団法人青年海外協力協会 Japan Overseas Cooperative Association	業務調整 Coordination
32	白木 明子 Ms. Akiko Shiraki	社団法人青年海外協力協会 Japan Overseas Cooperative Association	業務調整 Coordination

**USAR OPERATIONS Contact List**

Commander - Jim Stuart-Black

**NZ TASK FORCE**

Leader (A) - Bryce Coneybear

Leader (B) - Graham Mills

**LOGISTICS MANAGER (BoO)**

Manager (A) - Dick Tolan

Manager (B) - Mike McEnaney

**OSOCC**

Manager (A) - Roy Breez

Manager (B) - Paul Burns

Trevor

Tim

Meng

Derrick

**USAR Medical Director**

Dr. Charmaine Tate

**INTERNATIONAL TASK FORCE CONTACT PERSON**

NSW - Tom Cooper

QLD - David Hermann 1200 – 2359hrs

- Brad Commens 0000 – 1159hrs

SIN - Andy Tan

TAIWAN - Liang Kao Wei

JAPAN - Kei Jinnai

UK - Peter Crook

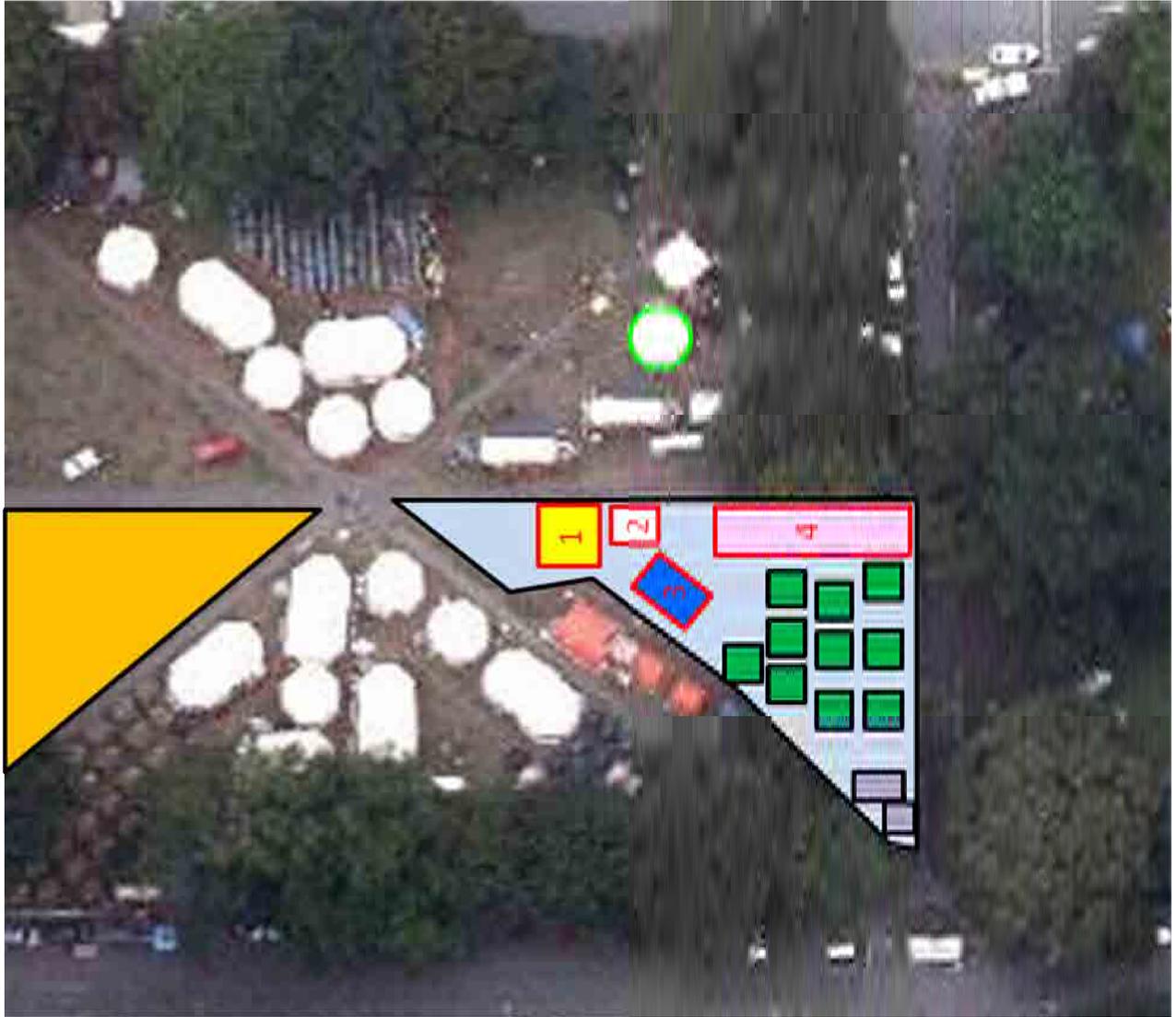
USA - Dewey Perks

- Tom Ewald

CHINA - Ming Zhao

**Christchurch Chaplain**

Rev. Peter Collier



**凡 例**

- △ JDR使用スペース
- OSOCCテント
- ▲ ドッグラン(共用)
- ロジテント
- デコンテント
- 1 指揮本部テント
- 2 医療班テント
- 3 ロジテント
- 4 資機材スペース

## USAR OSOCC BRIEFING

1. Introductions
2. NZTF Overview
3. OSOCC Overview
4. Base of Operations
5. USAR Team Update - USAR Teams
6. Communications
7. Safety Update/Overview
8. Medical update
9. USAR Team Requirements
10. Questions
11. Next Briefing

USAR OSOCC BRIEFING  
24/02/2011 @ 0700hrs

1. NZTF Overview – Bryce
  - Focus on getting remaining buildings assessed and decide where to focus resources
2. OSOCC Overview - Paul
  - 5 teams have arrived, USA and UK teams will be delayed until 25/2/11
  - Teams to share sitrep for the work done during the night
3. Base of Operations - Dick
  - Will brief Japan and Taiwan teams after meeting
  - Will inform all teams once laundry service is established
4. USAR Team Update – USAR teams
  - Much assessment progress during night
  - QLD located 4 bodies at CTV building and have extricated one. Heavy equipment coming in to help in rescue work.
  - Target to get remaining areas assessed by the end of day
  - Assignment of tasking (details to be given by Command Centre)
    - NZ TF - Sumner
    - QLD - Lyttelton
    - NSW / SIN – remain in Town
    - Taiwan – Town with local civil defence teams
    - Japan – CTV building
5. Communications
6. Safety Update/Overview
  - Continue to be vigilant with personal hygiene
  - Task force medical personnel to look after member's hygiene and provide own medical coverage on ground
  - To inform Command Centre when encounter live victim. Medical support will be sent to ensure national medical protocol followed
7. USAR Team Requirements
8. Questions
9. Next Briefing  
24/02/2011 @ 1900hrs

USAR OSOCC BRIEFING  
24/02/2011 @ 1900hrs

1. NZTF Overview – Graham

- Priority focus – complete assessments with the view to identifying potential survivor sites
  - Status of assessment
    - Sector 1 – 93%
    - Sector 2 – 78%
    - Sector 3 – 42%
    - Sector 4 – 84%
    - Sumner completed
  - Focus on completing assessment. Once completed, focus will shift to DVI.
- DVI
  - DVI operations under the direction of NZ police have commenced at CTV and PGC building.
  - DVI police may need assistance from USAR teams to assess safety of sites for them to be able to conduct their DVI operations – tasking will come from USAR Command.
  - Once assessment has been completed and the directive issues, focus on USAR support of DVI operations.
- Tasking
  - All tasking will be provided by USAR Command
    - TF leader to receive tasking
    - Transport officer to allocate vehicles
    - NZ engineers required to accompany all USAR teams on tasks. If international USAR team has internal engineering support, they in turn will be supported by NZ engineers.

2. OSOCC Overview - Murray

- Reporting lines
  - Tasking by USAR Command
  - Reporting from international USAR teams through OSOCC

No:	Team	No: Members	Arrival
1.	NSW TF 1	72	08h30; 23.02.2011
2.	QLD TF 1	70	16h30; 23.02.2011
3.	Singapore	55	17h00; 23.02.2011
4.	Taiwan	22	02h40; 24.02.2011
5.	Japan	66	07h00; 24.02.2011
6.	U.K ISAR	56	(Adv arrived 17h00; 24.02.2011) Main contingent eta 10h50; 25.02.2011
7.	USA	72	01h45; 25.02.2011

- No. of people attending briefing getting large
  - TF leaders to keep size of personnel attending briefing to most essential

3. Base of Operations - Dick

- Water and electricity to individual TF BoO is in the process of being established
- Food supply to city is still limited and therefore teams should be aware that they may still need to rely on food ration until food supply can be increase

4. USAR Team Update – USAR teams
  - NSW recovered one body from PGC building, JAP recovered 9 bodies from CTV building, QLD recovered 11 bodies from CTV building
  - Singapore, Taiwan, QLD reported back on their assessment tasks – no potential live sites located
  - UK forward party arrived and are committed to render assistance in whatever areas necessary
5. Communications - Graham
  - Collect latest contact list and reporting requirement.
  - Required to submit 4 hourly radio report to USAR Command
6. Safety Update/Overview - Graham
  - To be mindful of CO concentration from fire at CTV sites
  - To look after safety of own members as well as contractors supporting TF
  - To ensure there is good audible warning system at working sites – consider using fire appliance in high noise areas of operation
7. USAR Team Requirements
  - Established a On Site / Off Site Decontamination Protocol
  - Effective from 19h00
  - Applies to all USAR teams
  - To be familiar with onsite / off site decontamination procedure
8. Questions
  - TF leaders are advised to include a NZ engineer in their deployment even if they have own engineers.
9. Next Briefing  
25/02/2011 @ 0700hrs, OSOCC

# On Site /Off Site Decontamination

## Deployment Zone Definitions

- Hot Zone – Actual body / Biohazard
- Cold Zone – Normal rescue environment

## Hot Zone Procedure

- PPE Gear
- Don Disposable Overalls
- Double Latex Gloves / under leather gloves

## Breakdown Post Task

- Dispose Of all disposable PPE into Bio-Haz Bags
- Remove from site for disposal

## Post Deployment & Before entering Rest Area

- o Remove Outer Wear

### **Hot Zone exposure / Gross Contamination**

- o Decontamination Shower -> Shower
- o Redress

### **Cold Zone Exposure**

- o Outer Wear Off

## Camp Site Movement

- In / Out wash hands mandatory
- Prior to eating wash hands mandatory
- Gross Contamination of personal overalls
  - o Contain in Bio-hazard bag and replace

USAR OSOCC BRIEFING  
25/02/2011 @ 0700hrs

1. NZTF Overview – Graham
  - More than 95% of CBD has been assessed. Focus continues to be on life recovery. Transition to recovery and DVI phase will happen after the whole CBD has been assessed.
  - Teams are reminded to ensure provide handing and taking over between shifts to ensure continual good flow of operations.
2. OSOCC Overview - Paul
  - The remaining UK and China USAR teams will arrive on 25/2/11.
  - NZ TF2 will implement a 24hrs rest and recovery for its members on 25/2/11. NZ TF1/3 will follow suit over the next 2-3 days.
3. Base of Operations - Mike
  - Decontamination facilities will be set up in preparation for the next phase of operations
  - Food stocks have been boosted up and can be issued to teams who need replenishment. Exercise caution when consuming food from outside BoO
4. USAR Team Update – USAR teams
  - QLD has extricated 15 bodies and Japan has extricated 12 bodies from CTV site thus far. Both teams will continue to be committed to CTV site.
  - NSW has extricated 4 bodies and identified another 4 bodies at the PGG site thus far.
5. Communications - Graham
  - The 4 hourly reporting system has worked well since implemented on 24/2/11.
  - All teams are reminded to adhere to this requirement.
6. Safety Update/Overview – Charmaine
  - As still within survivability timeframe, teams are advised to be familiar with mass casualty procedures. To call USAR comd post for guidance and support when encountered with such situation.
  - USAR Medical Director has issued a protocol to deal with removal of extremities to facilitate extraction. Strict adherence to this protocol is required by all teams.
7. USAR Team Requirements

No outstanding requirements raised
8. Questions

No questions raised
9. Next Briefing  
25/02/2011 @ 1900hrs

## **HUMAN REMAINS; REMOVAL OF EXTREMITIES TO FACILITATE EXTRICATION**

1. As this operation develops there may be occasions where safety concerns override the ability to extract a deceased person completely intact. Medical personnel may need to facilitate the removal of extremities in order to effect removal of deceased entrapped victims.
2. The following are the criteria for the elective removal of extremities of trapped deceased pers;
  - a. Safety of rescue personnel will be compromised by attempts to free trapped extremities.
  - b. To expedite access to alive victims.
  - c. Technically unable to free extremity and a need to move the body or access past the body.

### **Notification Procedure**

3. The following procedure will be applied by the duty USAR team if the above criteria are met. No elective removal of extremities is to commence until this procedure has been completed.
  - a. Via USAR operations notify the New Zealand (NZ) USAR Medical Director of the case.
  - b. The NZ USAR Medical Director will arrange to meet the USAR team on site. The following personnel will also be notified by the Medical Director;
    - i)DVI LO to USAR or,
    - ii)The on scene DVI team
    - iii)The National DVI Commander
  - c. Approval for the elective removal of extremities will be confirmed by the National DVI Commander and communicated to the Team via the NZ USAR Medical Director.
  - d. Appropriated timing of the elective event will be coordinated between the duty USAR team, the DVI scene team and the NZ USAR Medical Director.

### **Operative Procedure**

4. The following will be the process of removal;
  - a. Duty USAR medical personnel accompanied by the NZ USAR Medical Director will gain access to the human remains and plan an approach that minimizes tissue damage and best facilitates removal.
  - b. The on scene DVI team will collect all photographic and written evidence that they require
  - c. A limb can then be physically removed by any duty USAR medical staff provided the NZ USAR Medical Director is present and has direct oversight.
  - d. The on site DVI team will record the incident and actively log what human remains are trapped that will stay onsite
  - e. No markings will be done on the removed extremities
5. Any issues should be discussed with in the first instance with the NZ USAR Medical Director

## USAR OSOCC BRIEFING

26/02/2011 @ 1900

1. **NZRF Overview**
  - Still in rescue operations phase with continued work in the CTV site, Cathedral, Working men's club and PGG sites. Attempting to access high rise buildings via roof for possible people missing.
2. **OSOCC Overview -Brian**
  - As from 2000 hours tonight Police will be attached to each USAR Team. AT 0600 tomorrow all USAR Teams will have Police DVI personnel attached to them.
  - All deceased persons must be reported to Police DVI.
3. **Base of Operations – Roy**
  - Broadband communications will have 2 satellites connected tomorrow afternoon.
  - Re emphasizing hygiene around the BoO.
  - Welfare assistance to be offered to all teams.
  - Additional Mapping post established on Worcester ST
  - Catering has grown too large Army will now take over meal distribution in the near future.
  - Decontamination requirements for the BoO Cold zone inside BoO requires a foot wash in the foot baths. Red zone requires stage 2 contamination. Stage 3 decontamination required for all equipment.
4. **USAR Teams Update**
  - Focus on all Red and Amber Structures for clearance.
  - If heavy equipment is required call for it, however if significant removal is required seek authorization from USAR Command prior to removal.
  - Main focus on clearing the buildings from centre city outwards.
5. **Communications**
  - No new issues highlighted
6. **Safety Update Overview –Gary**
  - The use of masks required for airway protection due to organic vapors, use of P3 mask required.
7. **Medical Update**
  - Be aware of comments made due to sensitivity of others.
  - An abundance of tyvex suits are available to teams if needed.
8. **USAR Requirements**
  - 1100 am tomorrow the media would like to have an offsite Team Leaders briefing.
  - 1445 tomorrow the Governor General will be onsite.
  - The prime minister was very impressed and thankful for all the work being done.
9. **Questions**
  - UK team asked about the Numbers of persons still missing USAR Management still assessing.
10. **Next Briefing**
  - 0700

# USAR OSOCC BRIEFING

27/02/2011 @ 1900

1. **NZRF Overview**
  - Still in rescue operations phase with continued work in the CTV site, Cathedral and PGG sites.
  - An overview of these 3 sites was provided. It is estimated that de-layering and structural shoring operations will continue for an extended period of time.
2. **OSOCC Overview**
  - It was noted that the security regarding access to the BoO will tightened.
  - Clearing of the CBD assigned to USAR teams is largely complete.
3. **Base of Operations**
  - Broadband communications is now up and running. SSID: Farmside, password- farmside
  - Re emphasizing hygiene around the BoO
  - Details regarding the military catering will be provided as soon as they are available.
  - All USAR teams are reminded to adhere to BoO decontamination procedures.
4. **USAR Teams Update**
  - All structures to be classified as Red, Yellow and Green.
  - If heavy equipment is required, request via radio through USAR command.
  - Main focus will be clearing the buildings from centre city outwards.
5. **Communications**
  - No new issues highlighted
6. **Safety Update Overview**
  - Asbestos has been encountered at some sites.
  - Arrangements have been made for NZFS Hazmat specialist to be flown in from Auckland to provide specialist advice on how best to deal with this issue.
  - All USAR teams are advised of this threat and are encouraged to institute the appropriate precautionary measures.
  - Speed limit around Operational area is now 20kph.
7. **Medical / Safety Update**
  - Based on the exposure risk to asbestos fibers it is recommended that all USAR teams make use of P3 filters for respiratory protection.
  - Any teams that require assistance with P3 filters are requested to contact NZFS logistics.
  - The military is operating a Cat 3 decon unit for personnel and equipment at the entrance to the BoO.
8. **USAR Requirements**
  - The NZFS is in the process of making arrangements for some form of acknowledgement to the families of those who have perished in the earthquake.
  - USAR teams are requested to provide an expression of interest as to whether they would like to participate in this event. Details will be provided in due course.
  - The USAR teams are required to inform the NZFS if they are willing to be accompanied by a still photographer and videographer during onsite operations for a limited duration. Arrangements will be made accordingly.
  - USAR teams are requested to consider their de mobilization plan and to this end a demobilisation planning meeting is scheduled for 0930 28-02-2011.
9. **Law enforcement**
  - It was reiterated that a Police Officer will now be attached with each USAR team.
  - It was emphasized that the NZ Police is relying on the USAR teams to ensure all sites have been cleared.
  - It was stated that the NZ Police has authority to enter into secured structures. Therefore USAR teams that come across structures that are locked are to take guidance from the NZ Police officer attached to their team.
  - Arrangements have been made to have access to locksmith services 24/7.
10. **Questions**
11. **Next Briefing -0700**

# USAR OSOCC BRIEFING

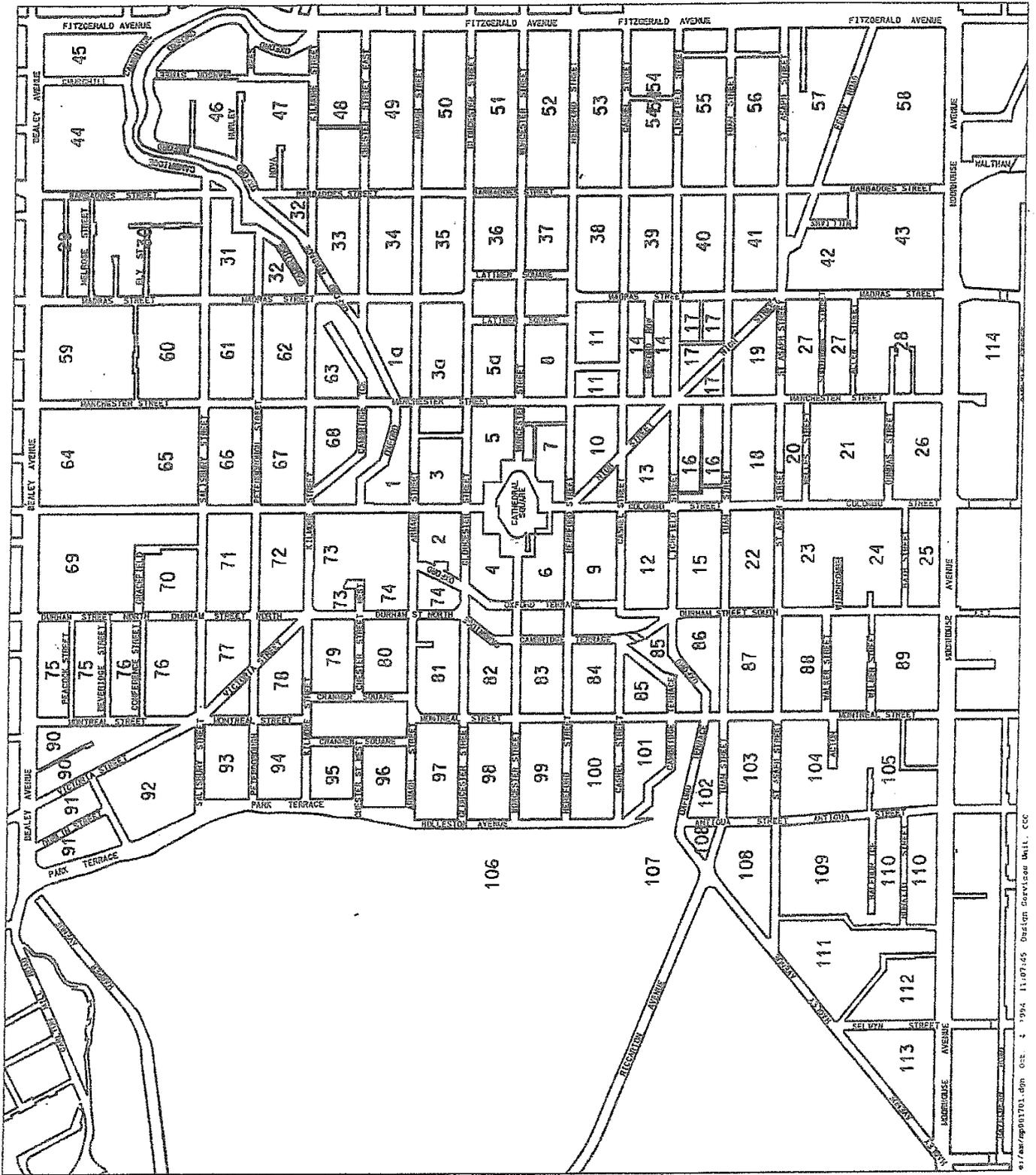
28/02/11 @ 0700

1. NZRF Overview
  - Still in rescue operations phase with continued work in the CTV site, Cathedral and PGG sites.
2. OSOCC Overview
  - Security regarding access to the BoO remains priority.
  - Clearing of the CBD assigned to USAR teams is largely complete with light teams operating outside the CBD to clear residences, etc.
3. Base of Operations
  - Broadband communications is now up and running. SSID: Farmside, password- farmside
  - All USAR teams are reminded to adhere to BoO decontamination procedures.
  - Fire/ Evac plan in place. Extinguishers and smoke alarms available for all public tents.
4. USAR Teams Update
  - All structures to be classified as Red, Yellow and Green.
  - If heavy equipment is required, request via radio through USAR command.
  - Main focus continues to be clearing the buildings from centre city outwards with most areas becoming complete.
5. Communications
  - No new issues highlighted
6. Safety Update Overview
  - Asbestos has been encountered at some sites.
  - Arrangements have been made for NZFS Hazmat specialist to be flown in from Auckland to provide specialist advice on how best to deal with this issue.
  - All USAR teams have been advised of this threat and are encouraged to institute the appropriate precautionary measures.
  - Speed limit around Operational area is now 20kph.
7. Medical Update
  - Testing for asbestos beginning today at sites.
8. USAR Requirements <sup>3</sup>
  - Tomorrow ~~29~~ 28/02 marks the one week anniversary of the quake. There will be a stop work/ moment of silence @ 1251 for 2 minutes.
  - The USAR teams are required to inform the NZFS if they are willing to be accompanied by a still photographer and videographer during onsite operations for a limited duration. Arrangements will be made accordingly.
  - Demob planning meeting to take place today @ 0930.
9. Law enforcement
  - It was reiterated that a Police Officer will now be attached with each USAR team.
  - It was stated a slight change in approach to accessing buildings be observed. Teams advised to use common sense and utilize locksmiths or obtain keys through law enforcement to access locked buildings to avoid unnecessary damage
  - USAR teams that come across structures that are locked are to take guidance from the NZ Police officer attached to their team.
  - Arrangements have been made to have access to locksmith services 24/7.
10. Questions
11. Next Briefing -0700

# USAR OSOCC BRIEFING

28/02/11 @ 1900

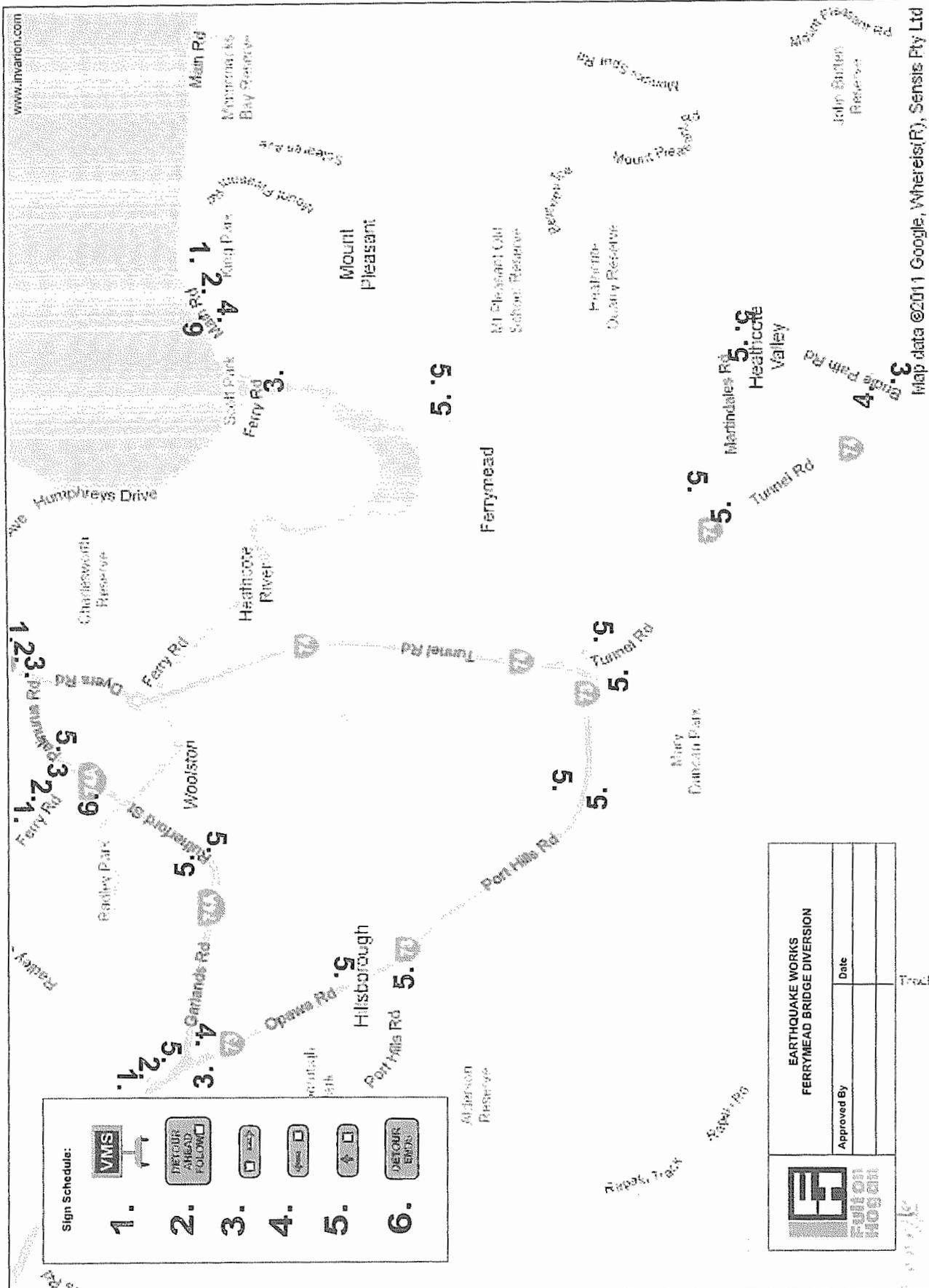
1. NZRF Overview
  - Still in rescue operations phase with continued work in the CTV site, Cathedral and PGG sites.
2. OSOCC Overview
  - Security regarding access to the BoO remains priority.
  - ID cards are being developed and distributed for access in to corridors
3. Base of Operations
  - All USAR teams are reminded to adhere to BoO decontamination procedures.
  - Looking at tightening security in to command areas of BoO
4. USAR Teams Update
  - If forcible entry is necessary, use a locksmith if possible to reduce damage. Coordinate locksmith through police.
5. Communications
  - No new issues highlighted
6. Safety Update Overview
  - No new issues highlighted
7. Medical Update
  - No new issues highlighted
8. USAR Requirements
  - No new issues highlighted
9. Law enforcement
  - No new issues highlighted
10. Questions
11. Next Briefing -0700



es:/ar/np011701.dgn 03: 4 1994 11:07:45 Design Services Unit, CC

REQUIRES STRUCTURAL CHECK

Location	Bridge/Road	Geotech/ Structural Geotech	Deployed	Inspected	Time	Open/Closed	Comment
Avonitdale / New Brighton	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	8:00	Closed	FH have closed
Bridge St	Bridge	OPUS	Yes	23-Feb	6:45	Closed	approach dropped by 5 metre, inspected by OPUS (only access to Brighton is via Waitomo bridge) Police have closed. - Being assessed by civil engineer (not structural). Should reassess when have access to CPEng Structural Engineer
Colombo Overbridge	Bridge	Structural	?	22-Feb	8:00	Closed	Marginal. Closed by Police, cranes are on unsteady platforms, keep shut at present, reassess in morning, talk to contractor about crane HEB section
Ferry/ Humpthrey (Ferryhead Bridge)	Bridge	Structural	?			Closed	Northern abutment settled 400mm, southern settled also but not as bad. Closed by army. FH gone out to close
Fitzgerald/ Avonside	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	7:00pm	Closed	FH advised at 3:25pm 23/2 that bridge is open.
Gayhurst Rd (Gloucester)	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	3:25pm	Open	City Care. Bridge .5 above road
Gloucester Street (At Locksley Ave)	Bridge	City Care				Closed	Inspection required(Police requested physical cordon at 0638 hrs, tape insufficient)
Helmores Lane bridge	Bridge	FH				Closed	Approaches slumped, Closed by City Care delour = Hawkins, Radcliff, blakes, Belfast.Expect open 24th
Madrate Street (Over Avon River)	Bridge	City Care	No	22-Feb	8:00	Closed	suspect, train derailed on top, suspect so get FH to close
Malcolm Ave (at Heathcote)	Bridge	Geotech				Closed	Major damage to columns. Needs to be closed Stefan asked FH to close at 8:49pm
Marshlands Road @ Lower Slys	Bridge	Structural	Yes	22-Feb	8:33	Closed	Needs to be closed. FH to action
Maritidales (Railway line)	Bridge	Structural	Yes	22-Feb	9:05pm	Closed	Close ASAP Quite a bit of structural damage, needs to be closed and accessed by structural engineer
McBrainys/locksley(intersection collapsed)	Intersection	FH				Closed	Limited access
Meorohouse overbridge	Bridge	Geo/Structural	Yes	22-Feb	8:45	Closed	Okay Being assessed by civil engineer (not structural). Should reassess when have access to
River Rd	Road		Yes	22-Feb	7:10pm	Open	Checked by OPUS structural
Spencerville Road	Culvert		Yes	22-Feb	8:37pm	Open	General inspection by City Care
Swanns /Avonside	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	7:10pm	Closed	Inspected by Tonkins. Open with minor cracking. Safe
Tunnel Road (At Ferry Road)	Bridge	FH	Yes	22-Feb		Open	Limited access
Armsagh Street (To Hagley Park)	Bridge	FH	Yes	22-Feb		Open	Inspected by USAR structural Engineers
Blenheim Rd	Bridge	Structural	Yes	23-Feb	0620 hrs	Open	One lane open. Bearing issue so being restricted to 3500kg and under. 11am 23rd
Bridges in Brooklands ok	Bridge	City Care	Yes	22-Feb	9:13	Open	Inspect by Tonkin. Safe but north approach is cracked. Road needs repair
Carlton Mill Corner (Harper Ave)	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	8:18	Open	Minor settlement to Bridge but ok couldn't get under to inspect
Colombo At Houtchels river	Bridge	Geotech	No	22-Feb		Open	With 30k speed restriction
Colombo Street (Over Avon River)	Bridge	FH				Open	With 30k speed restriction
Durham /Montreal	Bridge	USAR				Open	Failed wingwall, but ok for traffic, compression cracking recommend monitoring
Durham Overbridge	Bridge	OPUS	Yes	22-Feb	0300hrs	Open	Inspected by USAR structural Engineers
Encora Rd (at Heathcote)	Bridge	Geotech	No	22-Feb		Open	Passable but needs inspection on 23rd
Fendleton Rd (Deans Ave/ Harper Ave)	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	8:18	Open	locked fine.
Harbour Road	Bridge	Geotech				Open	Open with 30k speed limit 1230 23rd Currently one lane
Ilkham Bridge off Lower Slys	Bridge					Open	Deck good small crack in approach, broken kerb
Kahu Rd (CBHS)	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	8:18	Open	Inspected by Tonkins. Safe and drivable. TM needed
Montreal/ Cambridge	Bridge	USAR	Yes	23-Feb	0300hrs	Open	
New Brighton Road (Culvert Sth of Lake Teo	Culvert	Geotech	Yes	22-Feb	8:27	Open	
Opawa /Aynsley	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb		Open	
Skamora/ Avonside	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	7:21pm	Open	
Stevens Road	Bridge	Geotech	Yes	22-Feb	8:22	Open	
Tennyson St	Bridge	Geotech	No	22-Feb		Open	
Waimak old bridge	Bridge	Geotech	No	22-Feb		Open	



**Sign Schedule:**

1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
6.	

<b>EARTHQUAKE WORKS FERRYMEAD BRIDGE DIVERSION</b>	
<b>Approved By</b>	<b>Date</b>

www.invanon.com

Map data ©2011 Google, Whereis(R), Sensis Pty Ltd

